

平成24年度文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」選定取組

多職種協働による在宅がん医療・ 緩和ケアを担う専門人材育成拠点 平成26年度 年間活動報告書



在宅医療・福祉コンソーシアム長崎

長崎大学、長崎県立大学、長崎国際大学、長崎県、長崎市、長与町、佐世保市、
長崎県薬剤師会、長崎県病院薬剤師会、長崎県看護協会、長崎県医師会、長崎県歯科医師会、長崎県歯科衛生士会、
長崎県理学療法士協会、長崎県作業療法士会、長崎県言語聴覚士会、長崎県栄養士会、長崎県社会福祉士会、長崎県介護福祉士会、
認定NPO法人長崎在宅Dr.ネット

平成24年度文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」選定取組

多職種協働による在宅がん医療・ 緩和ケアを担う専門人材育成拠点 平成26年度 年間活動報告書



在宅医療・福祉コンソーシアム長崎

長崎大学、長崎県立大学、長崎国際大学、長崎県、長崎市、長与町、佐世保市、
長崎県薬剤師会、長崎県病院薬剤師会、長崎県看護協会、長崎県医師会、長崎県歯科医師会、長崎県歯科衛生士会、
長崎県理学療法士協会、長崎県作業療法士会、長崎県言語聴覚士会、長崎県栄養士会、長崎県社会福祉士会、長崎県介護福祉士会、
認定NPO法人長崎在宅Dr.ネット

目 次

はじめに	3
事業概要	5
取組紹介	6
実施体制	8
「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎」委員一覧	11
活動報告	13
大学教育プログラム	15
「在宅がん治療概論」／「在宅ケア概論」／「在宅緩和ケア概論」／「地域包括ケア概論」／「在宅医療概論」／「在宅チーム医療早期体験学習」／「地域包括ケア早期体験学習」／「在宅がん治療特論」／「在宅緩和ケア特論」／「地域包括ケア特論」／「在宅がん医療・緩和ケア実習」／「在宅看護論」／「薬物治療実践学」	
第1回長崎県民フォーラム	40
第2回長崎県民フォーラム	41
第3回長崎県民フォーラム	42
教育セミナー	43
本部委員会会議	44
推進委員会会議	45
運営委員会会議	46
学会等参加	48
平成27・28年度の事業計画	50
点検・評価	53
評価委員会会議	54
事業カレンダー	59
平成26年度事業カレンダー	60
平成24・25年度事業カレンダー（参考）	66
資料	69
チラシ・抄録等	70
構成大学	73
総括	74
おわりに	75

はじめに



長崎大学理事・副学長
松坂 誠應
(事業推進責任者・本部委員会委員長)

科学技術の発展、特に生命科学領域での進歩は目覚ましく、平均余命の延長に大きく貢献していると言われています。これまで長期の入院加療が必要だった「がん」治療も、新たな手術方法、副作用の少ない抗がん剤、在宅でも使用できる鎮痛剤などの開発で、早期の在宅復帰が可能になりました。患者本人への告知も一般的になり、医療者と協力することで治療効果も向上したと言われています。

しかし、少なくなったとはいえ、依然、抗がん剤には副作用が認められ、再発の可能性はゼロではありません。優れた鎮痛剤でも心理的・霊的・社会的要因が関与した「がん」性疼痛には効果は乏しいと言われています。早期に在宅復帰が出来るようになったために、日常的に相談できる医療者が患者・家族の身近におらず、その結果、彼らのQOLが低下するという逆説的な現象が起こっています。その大きな原因は、在宅がん患者・家族のニーズに応えることが出来る医療者や、がん治療を正しく理解した福祉・介護スタッフが非常に少ないことです。

在宅がん患者が抱える問題として、①再発と迫り来る死の恐怖、②副作用との戦い、③痛みへの恐れ、④自分らしい生活の喪失、⑤残される家族への思いなどが挙げられます。さらに、これらの問題は互いに影響し合って複雑な問題を引き起こしています。これらの問題に一人の医療者、一つの職種で対応できるはずもなく、高度なトレーニングを受けたチームでのアプローチが必要です。

以上のような状況を踏まえ、教育プログラムの開発を進め、各分野の専門職による講義と多職種チームでの演習と実習を行ってきました。その成果をご報告いたします。これも、コンソーシアムに参加して頂いている関係機関・団体のご支援・ご指導の賜物です。特に、体験学習にご協力を頂いた訪問先の療養者やご家族の方々、現場の専門職の方々に心からお礼申し上げます。



事業概要

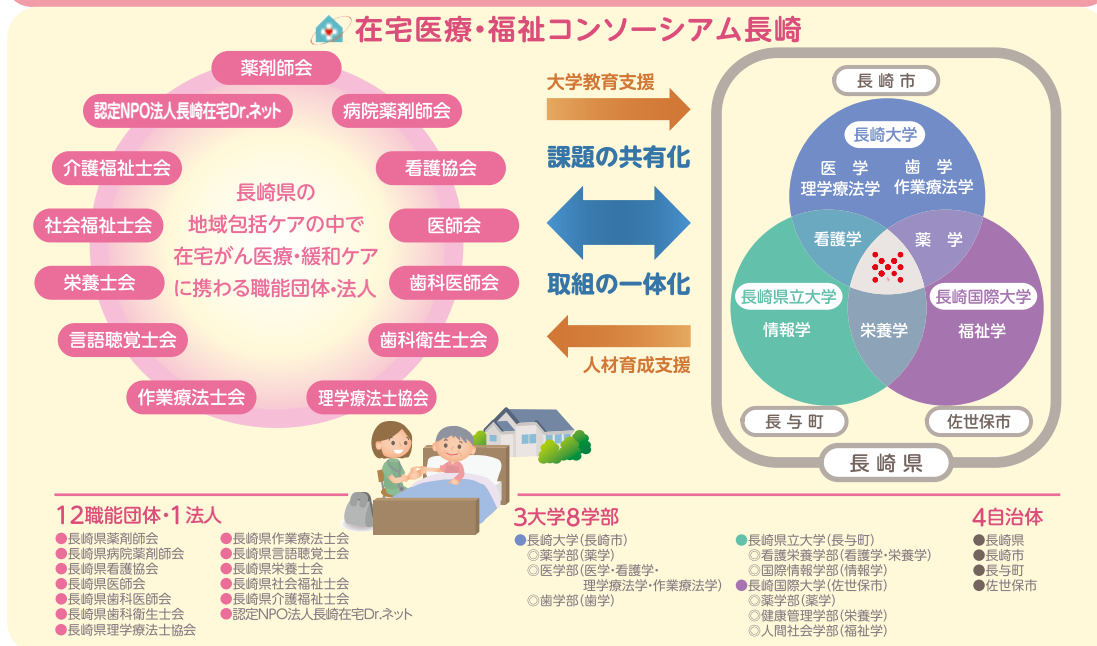
取組紹介

平成24年度「大学間連携共同教育推進事業」選定取組 「多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成拠点」

わが国の保健医療分野では多職種協働による在宅医療体制の整備が重要な課題となっており、地域包括ケアの中で在宅がん患者の療養支援を行う体制整備を推進する必要性は高い。そこで、薬学・看護学の統合教育体制を確立している長崎県内の国公私立3大学（長崎大学・長崎県立大学・長崎国際大学）が、さらに医学・歯学等の教育者を加えた協働教育体制の充実に図り、県内の4自治体・12職能団体・1法人と連携・一体となって、多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成の拠点作りを目指す取組である。

プロジェクト概要

連携取組の実現に向けた実施体制



長崎薬学・看護学連合コンソーシアムのロゴマーク
長崎県内で薬剤師と看護師の養成課程を持つ国公私立3大学が、1自治体・5職能団体と連携し、平成21年度から活動が続いているコンソーシアム。

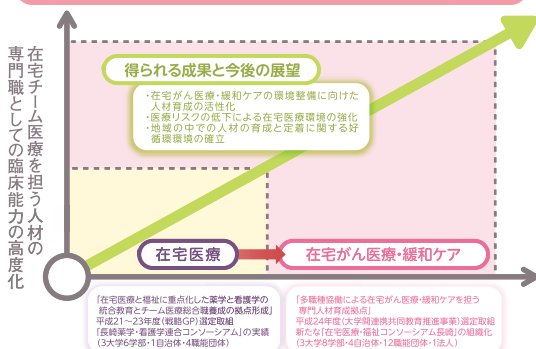
連携取組の内容

在宅医療・がん医療・緩和ケアの教育を学習アウトカムを重視した順次性カリキュラムに基づく大学間単位互換の合同授業・合同実習として「NICE キャンパス長崎」に登録し、大学間連携教育の実質化と質保証を図る。さらに、大学と地域の連携に基づく協働教育により当該地域の中での循環型人材育成体制を確立する。

期待される効果

3大学の保健医療・福祉分野の学生は、多職種協働の必要性を認識し、自らの専門分野とは異なる分野のケアに関する基礎力・応用力・実践力を身につけ、多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門職としての主体性・協調性を修得できる。さらに、医療と福祉の専門職による在宅がん医療・緩和ケアの協働支援体制整備に向けた人材育成環境が活性化されることで地域の医療リスクが低下し、在宅医療環境が強化される。

在宅がん医療・緩和ケアの環境整備に向けた多職種協働による在宅チーム医療体制の発展・充実



在宅チーム医療を担う人材を育成するための協働教育体制の拡充

構成大学および各事務局連絡先



在宅医療・福祉コンソーシアム長崎 <http://www.hhc-nagasaki.jp/>

連携取組で育てたい人材像とは。

この取組で目指すのは、多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門職としての主体性と協調性を身につけ、在宅がん医療に貢献できる人材の育成です。

そのような人材を必要とする背景には、どのような課題があるのでしょうか。

保健医療分野では、当該地域における在宅医療体制の整備は急務であり、在宅がん患者の療養支援を担う人材育成は、地域の大学群が連携地域の現場と一体となり取り組むべき重要なテーマです。

なぜこの3大学で連携することになったのですか。

3大学の薬学と看護学の学部が連携した「長崎薬学・看護学連合コンソーシアム」の活動が基礎となっています。本取組では、在宅がん患者の療養支援ができる人材を育成するため、さらに医学・歯学等の教育者を加えた協働教育体制の充実を図り、3大学8学部でタッグを組むことにしました。具体的には、医学・歯学・薬学・看護学・リハビリテーション学の教育に強みを持つ長崎大学、看護学・栄養学・情報学の教育に強みを持つ長崎県立大学、そして薬学・栄養学・福祉学の教育に強みを持つ長崎国際大学の3大学が連携し、目指す人材の育成に必要な力を結集します。

取組は5年間実施します。どのような計画を立てていますか。

平成24年度は、3大学が県内の4自治体・1法人・12職能団体と一体となった「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎」を設立し、本取組を遂行するための基盤整備を行います。平成25年度からは「地域がん包括ケアの早期体験学習」という実習科目を始め5科目の大学間合同による単位互換科目を開講します。その後は毎年、既の開講した科目のカリキュラムを見直ししながら、演習や実習の科目数を増やし、平成28年度には10科目を超える大学間合同による単位互換科目を開講し、プログラムの体系化を図る予定です。また、取組の期間終了後も開講した科目は継続していきたいと考えています。

この事業に採択されたことで、新たにどのようなことができるようになりますか。

在宅がん医療・緩和ケアの実務家である教員を3大学に配置することで、大学内及び大学間における実行性のある連携教育を展開するための体制基盤ができました。

取組の中には、各大学等でこれまで行っていた活動のレベルアップを図るものもあると思いますが、それはどのようなものですか。

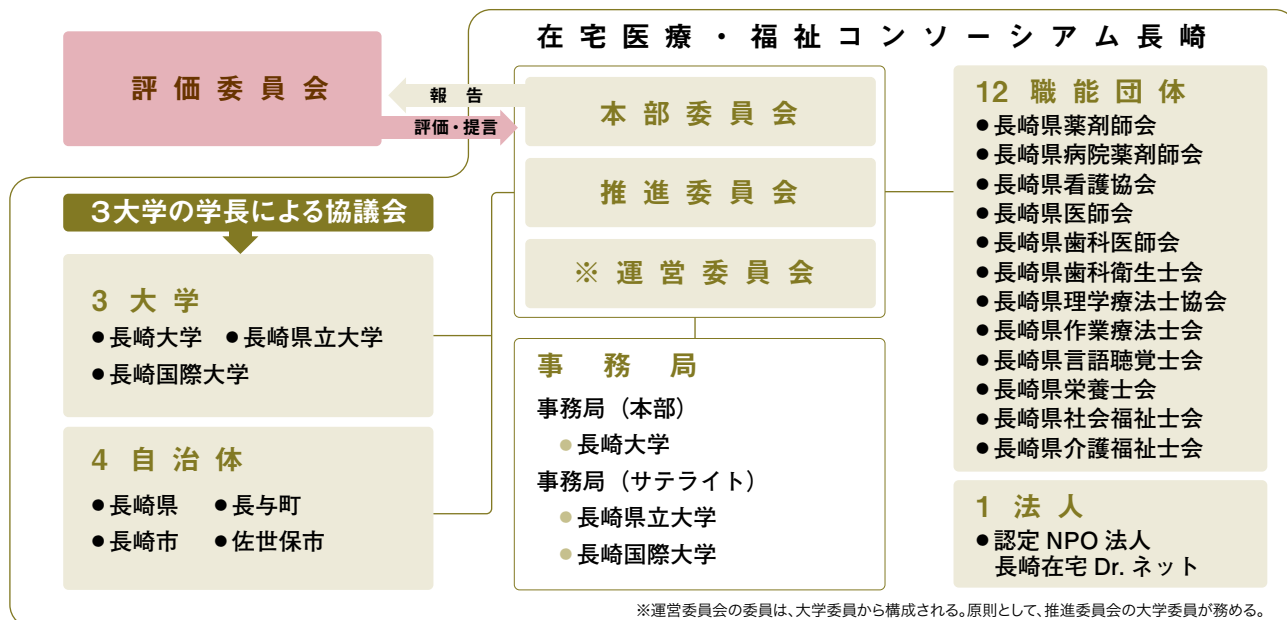
既に確立している在宅チーム医療に関する薬学と看護学の統合教育体制を基に、医学や歯学等の教育者を加えた協働教育体制の充実を図ります。毎年三百人程度の連携校の学生が「多職種協働による在宅がん医療・緩和ケア」について、各分野の専門家から直接指導を受けることができます。

連携の成果はどのような形で社会に示すことができるのでしょうか。具体的な成果指標のイメージはありますか。

学生は多職種協働の必要性を認識し、自らの専門分野とは異なる分野のケアに関する基礎力、応用力、実践力を身につけ、在宅がん患者の療養支援ができる専門性を修得できます。これは学習アウトカムの達成度をもって確認します。地域の在宅医療機関や福祉施設で広く活躍するよう全力で取組を進めてまいります。

実施体制

運営体制と評価体制



・コンソーシアムを構成する自治体・職能団体は、大学との協働により科目の開発、授業担当者の派遣、実習施設の提供、実施後の科目の点検を行い、更にプロジェクト全体の評価を行う。
 ・本部委員会(年2回)、推進委員会(年2回)、運営委員会(年6回)を開催することにより、連携機関との定期的な協議の場を設ける。

本部委員会

本部委員会は、コンソーシアムの組織における最上位に位置する意思決定機関であり、コンソーシアムが連携取組を円滑に展開するための事業運営について審議する。

本部委員会委員			
3大学		4自治体	
長崎大学	松坂 誠 應	委員長	
	下 川 功	長崎県	伊 東 博 隆
	田 中 悟 郎	長崎市	早 田 篤
	中 山 浩 次	長与町	田 島 弘 明
	中 山 守 雄	佐世保市	赤 瀬 隆 彦
	中 嶋 幹 郎		
長崎県立大学	松 本 幸 子	副委員長	
	大 曲 勝 久		
	庄 山 茂 子		
長崎国際大学	榊 原 隆 三	副委員長	
	矢 野 捷 介		
	木 村 勝 彦		
12職能団体・1法人			
長崎県薬剤師会	宮崎 長一郎		
長崎県病院薬剤師会	佐々木 均		
長崎県看護協会	副島 都志子		
長崎県医師会	蒔 本 恭		
長崎県歯科医師会	許 斐 義 彦		
長崎県歯科衛生士会	猪 野 恵 美		
長崎県理学療法士協会	塩 塚 順		
長崎県作業療法士会	沖 英 一		
長崎県言語聴覚士会	田上 由貴子		
長崎県栄養士会	篠 崎 彰 子		
長崎県社会福祉士会	毛 利 宣 子		
長崎県介護福祉士会	有 村 俊 男		
認定 NPO 法人 長崎在宅 Dr. ネット	藤 井 卓		

平成27年3月現在

推進委員会

推進委員会は、コンソーシアムの組織における事業推進機関であり、コンソーシアムが連携取組を円滑に展開するための事業内容及び事業計画について審議し、その結果を本部委員会と運営委員会に報告する。



運営委員会

運営委員会は、コンソーシアムの組織における実行機関であり、コンソーシアムが連携取組を円滑に展開するための事業内容及び事業計画の立案、連携取組の実行の任務に当たり、その内容を推進委員会に報告する。



※運営委員会の委員は、大学委員から構成される。原則として、推進委員会の大学委員が務める。

評価委員会

評価委員会は、コンソーシアムの組織における評価機関であり、連携取組の内容に対する評価及び提言を行う。

評価委員会委員

九州大学医学部	吉 田 素 文
九州大学歯学部	中 村 誠 司
熊本大学薬学部	丸 山 徹 委員長
神戸市看護大学	鈴木 志津枝
長崎リハビリテーション病院	栗 原 正 紀
九州女子大学家政学部	巴 美 樹
長崎ウエスレヤン大学	森 泰 一 郎
日本在宅薬学会	狭 間 研 至

平成27年3月現在

「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎」 委員一覧

(敬称略、順不動)

長 崎 大 学	
松 坂 誠 應	長崎大学理事・副学長 (事業推進責任者、本部委員会委員長)
下 川 功	長崎大学医学部長 (本部委員会委員)
田 中 悟 郎	長崎大学医学部保健学科長 (本部委員会委員)
安 武 亨	長崎大学医学部医学科教授 (推進委員会委員、運営委員会委員)
前 田 隆 浩	長崎大学医学部医学科教授 (推進委員会委員、運営委員会委員)
楠 葉 洋 子	長崎大学医学部保健学科教授 (推進委員会委員、運営委員会委員)
山之内 孝彰	長崎大学医学部医学科助教 (専任教員、推進委員会委員、運営委員会委員)
松山 し の ぶ	長崎大学医学部保健学科助教 (専任教員、推進委員会委員、運営委員会委員)
中 山 浩 次	長崎大学歯学部部長 (本部委員会委員)
齋 藤 俊 行	長崎大学歯学部教授 (推進委員会委員、運営委員会委員)
介 田 圭	長崎大学歯学部助教 (専任教員、推進委員会委員、運営委員会委員)
中 山 守 雄	長崎大学薬学部部長 (本部委員会委員)
中 嶋 幹 郎	長崎大学薬学部教授 (本部委員会委員、推進委員会委員長、運営委員会委員長)

長 崎 県 立 大 学	
松 本 幸 子	長崎県立大学看護栄養学部看護学科教授 (本部委員会副委員長、推進委員会委員、運営委員会委員)
大 曲 勝 久	長崎県立大学看護栄養学部部長 (本部委員会委員)
永 峯 卓 哉	長崎県立大学看護栄養学部看護学科准教授 (推進委員会委員、運営委員会委員)
駿 河 和 仁	長崎県立大学看護栄養学部栄養健康学科准教授 (推進委員会委員、運営委員会委員)
吉 原 律 子	長崎県立大学看護栄養学部看護学科准教授 (専任教員、推進委員会委員、運営委員会委員)
庄 山 茂 子	長崎県立大学国際情報学部部長 (本部委員会委員)
前 村 葉 子	長崎県立大学国際情報学部講師 (推進委員会委員、運営委員会委員)

長 崎 国 際 大 学	
榊 原 隆 三	長崎国際大学薬学部部長 (本部委員会副委員長、推進委員会委員、運営委員会委員)
山 田 勝 士	長崎国際大学薬学部薬学科長 (推進委員会委員)
岩 下 淳 二	長崎国際大学薬学部准教授 (専任教員、推進委員会委員、運営委員会委員)
大 磯 茂	長崎国際大学薬学部准教授 (運営委員会委員)
矢 野 捷 介	長崎国際大学健康管理学部部長 (本部委員会委員)
野 村 秀 一	長崎国際大学健康管理学部健康栄養学科長 (推進委員会委員)
林 俊 介	長崎国際大学健康管理学部講師 (運営委員会委員)
木 村 勝 彦	長崎国際大学人間社会学部部長 (本部委員会委員)
豊 島 律	長崎国際大学人間社会学部社会福祉学科長 (推進委員会委員)
山 崎 久 子	長崎国際大学人間社会学部教授 (運営委員会委員)

長 崎 県	
伊 藤 博 隆	長崎県福祉保健部長 (本部委員会委員)
三 田 徹	長崎県福祉保健部医療政策課長 (推進委員会委員)
重 野 哲	長崎県福祉保健部薬務行政室長 (推進委員会委員)

長 崎 市	
早 田 篤	長崎市保健所長 (本部委員会委員)
南 涼 子	長崎市市民局福祉部高齢者すこやか支援課長 (推進委員会委員)

長 与 町	
田 島 弘 明	長与町生活福祉部長 (本部委員会委員)
森 川 寛 子	長与町生活福祉部健康保険課長 (推進委員会委員)

佐 世 保 市	
赤 瀬 隆 彦	佐世保市保健福祉部長 (本部委員会委員)
松 本 裕 成	佐世保市保健福祉部医療政策課長 (推進委員会委員)

長 崎 県 薬 剤 師 会	
宮 崎 長 一 郎	長崎県薬剤師会長 (本部委員会委員)
中 野 正 治	長崎県薬剤師会副会長 (推進委員会委員)

長 崎 県 病 院 薬 剤 師 会	
佐々木 均	長崎県病院薬剤師会長 (本部委員会委員)
町 田 毅	長崎県病院薬剤師会副会長 (推進委員会委員)

長 崎 県 看 護 協 会	
副島 都志子	長崎県看護協会長 (本部委員会委員)
道辻 美佐子	長崎県看護協会在宅支援事業部長 (推進委員会委員)

長 崎 県 医 師 会	
時 本 恭	長崎県医師会長 (本部委員会委員)
上 戸 穂 高	長崎県医師会常任理事 (推進委員会委員)

長 崎 県 歯 科 医 師 会	
許 斐 義 彦	長崎県歯科医師会長 (本部委員会委員)
吉 田 敏	長崎県歯科医師会理事 (推進委員会委員)

長 崎 県 歯 科 衛 生 士 会	
猪 野 恵 美	長崎県歯科衛生士会長 (本部委員会委員)
平 野 淑 子	長崎県歯科衛生士会専務理事 (推進委員会委員)

長 崎 県 理 学 療 法 士 協 会	
塩 塚 順	長崎県理学療法士協会会長 (本部委員会委員)
井 手 伸 二	長崎県理学療法士協会副会長 (推進委員会委員)

長 崎 県 作 業 療 法 士 会	
沖 英 一	長崎県作業療法士会長 (本部委員会委員)
黒 木 一 誠	長崎県作業療法士会理事 (推進委員会委員)

長 崎 県 言 語 聴 覚 士 会	
田上 由貴子	長崎県言語聴覚士会長 (本部委員会委員)
戸 澤 明 美	長崎県言語聴覚士会副会長 (推進委員会委員)

長 崎 県 栄 養 士 会	
篠 崎 彰 子	長崎県栄養士会長 (本部委員会委員)
古 谷 順 也	長崎県栄養士会理事 (推進委員会委員)

長 崎 県 社 会 福 祉 士 会	
毛 利 宣 子	長崎県社会福祉士会長 (本部委員会委員)
中 島 誠 司	長崎県社会福祉士会監事 (推進委員会委員)

長 崎 県 介 護 福 祉 士 会	
有 村 俊 男	長崎県介護福祉士会長 (本部委員会委員)
畑 中 洋 樹	長崎県介護福祉士会理事 (推進委員会委員)

認 定 N P O 法 人 長 崎 在 宅 D r . ネ ッ ト	
藤 井 卓	認定NPO法人長崎在宅Dr.ネット理事長 (本部委員会委員)
詫 摩 和 彦	認定NPO法人長崎在宅Dr.ネット副理事長 (推進委員会委員)

九 州 大 学	
吉 田 素 文	九州大学医学部教授 (評価委員会委員)
中 村 誠 司	九州大学歯学部教授 (評価委員会委員)

熊 本 大 学	
丸 山 徹	熊本大学薬学部教授 (評価委員会委員長)

神 戸 市 看 護 大 学	
鈴木 志津枝	神戸市看護大学長 (評価委員会委員)

長 崎 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 病 院	
栗 原 正 紀	長崎リハビリテーション病院理事長、日本リハビリテーション病院・施設協会会長 (評価委員会委員)

九 州 女 子 大 学	
巴 美 樹	九州女子大学家政学部教授 (評価委員会委員)

長 崎 ウ エ ス レ ヤ ン 大 学	
森 泰 一 郎	長崎ウエスレヤン大学長 (評価委員会委員)

日 本 在 宅 薬 学 会	
狹 間 研 至	日本在宅薬学会理事長 (評価委員会委員)

平成27年3月現在



活動報告

大学教育プログラム

在宅医療・福祉コンソーシアム長崎 大学間単位互換科目の開発年次計画

科目名	コーディネート科目	学年	授業方法	区分	開講主担当	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
「在宅がん治療概論」	○	低学年	講義 (オムニバス)	合同授業 (基礎力)	長崎大学		[NICEキャンパス 長崎]科目登録	授業内容を見直し、充実化を図る。		
「在宅ケア概論」	○	低学年	講義 (オムニバス)	合同授業 (基礎力)	長崎大学		[NICEキャンパス 長崎]科目登録	授業内容を見直し、充実化を図る。		
「在宅緩和ケア概論」	○	低学年	講義 (オムニバス)	合同授業 (基礎力)	長崎県立大学		[NICEキャンパス 長崎]科目登録	授業内容を見直し、充実化を図る。		
「地域包括ケア概論」	○	低学年	講義 (オムニバス)	合同授業 (基礎力)	長崎国際大学		[NICEキャンパス 長崎]科目登録	授業内容を見直し、充実化を図る。		
「在宅医療概論」	○	低学年	講義 (オムニバス)	合同授業 (基礎力)	長崎国際大学		[NICEキャンパス 長崎]科目登録	授業内容を見直し、充実化を図る。		
「在宅チーム医療 早期体験学習」	○	低学年	実習	合同実習 (動機付け)	長崎大学 長崎県立大学 長崎国際大学		[NICEキャンパス 長崎]科目登録	授業内容を見直し、充実化を図る。		
「地域包括ケア 早期体験学習」	○	低学年	実習	合同実習 (動機付け)	長崎大学 長崎県立大学 長崎国際大学		[NICEキャンパス 長崎]科目登録	授業内容を見直し、充実化を図る。		
「在宅がん治療特論」	○	高学年	演習 (模擬カンファ)	合同授業 (応用力)	長崎大学		[NICEキャンパス 長崎]科目登録	授業内容を見直し、充実化を図る。		
「在宅緩和ケア特論」	○	高学年	演習 (模擬カンファ)	合同授業 (応用力)	長崎県立大学		[NICEキャンパス 長崎]科目登録	授業内容を見直し、充実化を図る。		
「地域包括ケア特論」	○	高学年	演習 (模擬カンファ)	合同授業 (応用力)	長崎国際大学		[NICEキャンパス 長崎]科目登録	授業内容を見直し、充実化を図る。		
「在宅がん医療・ 緩和ケア合同実習」	○	高学年	実習	合同実習 (実践力)	長崎大学 長崎県立大学 長崎国際大学	3月6～8日に 小規模トライアル 実施	2月～3月に 大規模トライアル 実施予定	[NICEキャンパス 長崎]科目登録	授業内容を見直し、 充実化を図る。	
「在宅看護論」	—	低学年	講義 (オムニバス)	合同授業 (応用力)	長崎県立大学		[NICEキャンパス 長崎]科目登録	授業内容を見直し、充実化を図る。		
「薬物治療実践学」	—	高学年	講義 (オムニバス)	合同授業 (応用力)	長崎大学		[NICEキャンパス 長崎]科目登録	授業内容を見直し、充実化を図る。		

科目のモジュール化 → 大学間単位互換プログラムの体系化

講義 実習 演習

NICEキャンパス長崎について

「NICEキャンパス長崎」は、平成13年度からスタートした単位互換制度で、長崎県内全ての大学、短期大学及び高等専門学校が参加している。「NICE」の名称は、Nagasaki Intercollegiate(大学間)Credit(単位)Exchange(互換)の頭文字である。

単位互換制度は、各大学等が提供している授業科目(コーディネート科目、教養科目、専門科目)の中から、希望する科目を履修し、科目開設大学で単位を修得すれば所属大学の単位として認定される制度である。

※コーディネート科目

単位互換用に新たに開設する科目で、開講大学が設定した長崎らしいものや時事的なものをテーマに、他の大学の教員や、実業界で活躍されている方の協力を得て、オムニバス形式で講義を行う。



「NICEキャンパス長崎」
2014年度学生募集ガイド

コーディネート科目

合同授業（基礎力）

「在宅がん治療概論」

概 要

在宅がん治療の基礎知識、在宅がん治療に携わるそれぞれの職種の職能、各職能がどのように連携して在宅がん治療に取り組んでいるかについて学習する。講義はオムニバス形式で行う。

科 目

開講期間：平成26年5月22日（木）～平成26年7月10日（木）

開講時間：18:30～20:00（90分）

開講場所：長崎大学薬学部第2講義室

単 位：1単位（教養科目）

対 象：「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生、一般社会人

カリキュラム・講師

回	月 日	内 容	講 師
1	5月22日	オリエンテーション・がん患者の在宅療養支援	中嶋 幹郎（長崎大学薬学部）
2	5月29日	がん看護における看護師の役割	中嶋 由紀子（長崎大学病院がん診療センター）
3	6月5日	がん診療における医師の役割	芦澤 和人（長崎大学病院がん診療センター）
4	6月12日	がん治療における多職種協働	手嶋 無限（開生薬局）
5	6月19日	在宅がん治療における医師・歯科医師の役割	山之内 孝彰（長崎大学医学部医学科） 介田 圭（長崎大学歯学部）
6	6月26日	在宅がん治療における看護師・薬剤師の役割	江口 真美（長崎大学医学部保健学科） 江頭 かの子（長崎大学薬学部）
7	7月3日	在宅がん治療における栄養管理	駿河 和仁（長崎県立大学看護栄養学部栄養健康学科）
8	7月10日※	在宅がん治療における地域リハビリテーション	松坂 誠應（長崎大学医学部保健学科）

※7月10日は台風のため中止

履修生内訳

所 属		人 数
長崎大学	医学部（保健学科）	1名
	歯学部（歯学科）	16名
長崎女子短期大学	生活創造学科ビジネス・医療秘書コース	3名
合計		20名

聴講生内訳

所 属		人 数
長崎大学	医学部（医学科）	7名
	薬学部（薬学科）	2名
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科		5名
合計		14名



受講生の感想（一部抜粋・編集）

- 末期がん患者に共通してみられる思いとして、「家にいるのが一番」、「悔いを残したくない」などというものがあつた。医師は、患者が最期に何をしたいのか、どのように過ごしたいのかという患者の意志を受け入れなければならない。患者が自宅療養を希望した場合、それをサポートできるよう尽力することが大事だと思った。（医学生）
- 今回の講義で様々な専門職が患者の支えとなれることを知り、今後は多職種と連携感を持って医療を行っていくことが重要だと思った。（看護学生）
- 歯科医師視点での講義は新鮮でとても興味深く、口腔ケアのあり方というものが自分自身の中で大きく変わった。歯科医師がどのような形で在宅医療に携わっているのか理解することができた。（薬学生）
- これまで多職種協働とは、様々な職種が其々の知識を出し合うことだと思っていたが、講義を通して自己および他の職種に対する理解、特に限界を知ることが大事であると学んだ。他職種を知り、自身のできることを認識して協力していきたいと思った。（薬学生）

「在宅ケア概論」

概 要

在宅療養支援に携わるそれぞれの職種の職能について、また各職能がどのように連携して在宅チーム医療を行っているかについて学習する。講義はオムニバス形式で行う。

科 目

開講期間：平成26年10月2日（木）～平成27年1月22日（木）

開講時間：18：30～20：00（90分）

開講場所：長崎大学薬学部第2講義室、5階研修室、第1講義室

単 位：2単位（教養科目）

対 象：「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生、一般社会人

カリキュラム・講師

回	月 日	内 容	講 師
1	10月2日	オリエンテーション・在宅療養支援概論	中嶋 幹郎（長崎大学薬学部）
2	10月9日	在宅療養支援における介護支援専門員の役割	大町 いづみ（長崎大学医学部保健学科）
3	10月16日	在宅療養支援における緩和ケア	北條 美能留（長崎大学病院緩和ケアチーム）
4	10月23日	在宅療養支援における地域医療連携（概論）	川崎 浩二（長崎大学病院地域医療連携センター）
5	10月30日	在宅療養支援における地域医療連携の実際 （看護師ならびに医療ソーシャルワーカーの立場から）	田平 直美（長崎大学病院地域医療連携センター） 向田 圭介（長崎大学病院地域医療連携センター）
6	11月6日	在宅療養支援における長崎在宅Dr.ネットの役割	藤井 卓（認定NPO法人長崎在宅Dr.ネット） （藤井外科医院）
7	11月13日	在宅療養支援における看護職の役割	中尾 八重子（長崎県立大学看護栄養学部看護学科）
8	11月20日	在宅療養支援における訪問リハビリの役割	本田 憲一（長崎リハビリテーション病院）
9	11月27日	在宅療養支援における薬剤師の役割	手嶋 無限（開生薬局）
10	12月4日	在宅療養支援における管理栄養士の役割	武藤 慶子（長崎県立大学看護栄養学部栄養健康学科）
11	12月11日	在宅療養支援における歯科医師の役割	角町 正勝（角町歯科医院）
12	12月18日	在宅療養支援における歯科衛生士の役割	猪野 恵美（長崎県歯科衛生士会）
13	1月8日	在宅療養支援における認知症	河口 朝子（長崎県立大学看護栄養学部看護学科）
14	1月15日	在宅療養支援における介護専門職の役割	堀部 和貴（長崎県介護福祉士会）
15	1月22日	在宅療養支援における地域包括支援センターの役割	神村 紀行（長崎市滑石・横尾地域包括支援センター）

履修生内訳

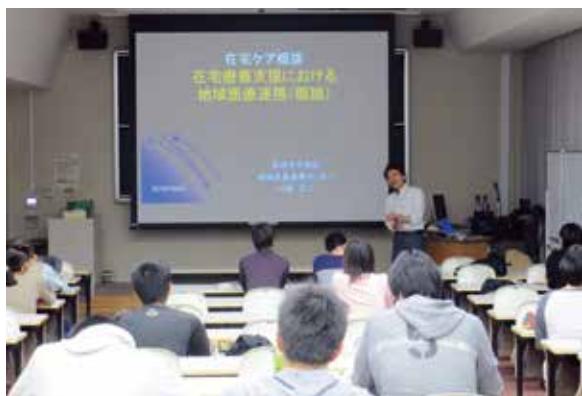
所 属		人 数
長崎大学	薬学部（薬学科・薬科学科）	5名
	医学部（医学科・保健学科）	2名
長崎国際大学	人間社会学部	1名
活水女子大学	健康生活学部	1名
合計		9名

聴講生内訳

所 属		人 数
長崎大学	医学部・薬学部	7名
合計		7名

一般社会人内訳

所 属	人 数
看護師・臨床検査技師・一般	4名
合計	4名



受講生の感想（一部抜粋・編集）

- 毎回違う先生のお話が聞けてとても良かったです。そして、他の大学の方たちとも知り合うことができ、とても有意義であった。（医学生）
- 現場での実習をまだしていないため、とても現場の写真等、印象的な講義だった。医療における自分の職業の役割については何となくわかっていたつもりでしたが、今回の講義で理解が深まりました。（薬学生）
- さまざまな医療者の方々の現場のお話を伺えて、本当に勉強になった。すばらしい講義に、毎回感動がありました。長崎での医療の概略がわかり、とても良かったです（一般社会人）

「在宅緩和ケア概論」

概 要

在宅緩和ケアの基礎知識、在宅緩和ケアに携わるそれぞれの職能、また各職種がどのようにして連携し在宅緩和ケアに取り組んでいるかについて学習する。講義はオムニバス形式で行う。

科 目

開講期間：平成26年10月8日（水）～平成27年1月28日（水）

開講時間：18：00～19：30（90分）

開講場所：長崎県立大学シーボルト校東棟E110・中央棟M104教室

単 位：2単位（教養科目）

対 象：「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生、一般社会人

カリキュラム・講師

回	月 日	内 容	講 師
1	10月8日	オリエンテーション・在宅緩和ケアの現状と課題	吉原 律子（長崎県立大学看護栄養学部看護学科）
2	10月15日	在宅緩和ケアの基礎知識	内田 新（長崎みなとメディカルセンター市民病院）
3	10月22日	ホスピス・緩和ケア	益富 美津代（聖フランシスコ病院ホスピス病棟）
4	10月29日	在宅緩和ケアとがん診療	山之内 孝彰（長崎大学医学部医学科）
5	11月5日	在宅緩和ケアにおける医師の役割	中尾 勘一郎（認定NPO法人長崎在宅Dr.ネット） （ホーム・ホスピス中尾クリニック）
6	11月12日	在宅緩和ケアにおける看護師の役割	吉原 律子（長崎県立大学看護栄養学部看護学科）
7	11月21日※	在宅緩和ケアにおける行政の役割	向原 茂明（杵岐市立杵岐市民病院）
8	11月26日	在宅緩和ケアにおける薬剤師の役割	手嶋 無限（開生薬局）
9	12月3日	在宅緩和ケアにおける歯科医師の役割	介田 圭（長崎大学歯学部）
10	12月10日	在宅緩和ケアにおける管理栄養士の役割	古川 美和（長崎市医師会医療センター診療所）
11	12月17日	在宅緩和ケアとリハビリテーション	松坂 誠應（長崎大学医学部保健学科）
12	1月7日	在宅緩和ケアにおける地域医療連携	川崎 浩二（長崎大学病院地域医療連携センター）
13	1月14日	在宅医療における情報通信技術の活用	前村 葉子（長崎県立大学国際情報学部）
14	1月21日	在宅緩和ケアで用いられる薬剤	手嶋 無限（開生薬局）
15	1月28日	在宅緩和ケアにおける死生観	内村 公義 （NPO法人ウエスレヤン・コミュニティカレッジ）

※11月21日は金曜日開講

履修生内訳

所 属		人 数
長崎県立大学	看護栄養学部（看護学科・栄養健康学科）	13名
長崎外国語大学	外国語学部（国際コミュニケーション学科）	1名
合計		14名

聴講生内訳

所 属		人 数
長崎県立大学	看護栄養学部（看護学科・栄養健康学科）	5名
合計		5名

一般社会人内訳

所 属	人 数	所 属	人 数
医師	1名	検査技師	1名
看護師	3名	一般	2名
合計			7名



受講生の感想（一部抜粋）

- これからは在宅医療が大切になっていくので、病院でのケアだけでなく様々な角度から治療の仕方を考えなければならなかった。今までは在宅緩和ケアのイメージがぼんやりとしかなかったが、しっかりと学んで取り組まなければならない部門だと思った。（栄養学生）
- 食事は生きる上で重要になることがよくわかった。インスリン注射を打たなくていい状態にまで回復していておどろき、管理栄養士の役割がいかに重要であるか知ることができた。“食べる意欲が生きる意欲につながる”という言葉がとても印象に残った。生きるということは互いに誰かと協力しなければいけないものではない。協力の大切さを毎回の授業の中で学んでいる気がする。（看護学生）
- 認知症の方の対処は難しいことを改めて知った。薬は、塗れない、開けられない、適切に飲めない大変さを知った。（一般社会人）

「地域包括ケア概論」

概 要

地域包括ケアの基礎知識、地域包括ケアに携わるそれぞれの職能、また各職種がどのように連携して地域包括ケアに取り組んでいるかについて学習する。講義はオムニバス形式で行う。

科 目

開講期間：平成26年5月10日（土）～平成26年6月28日（土）

開講時間：9：00～10：30、10：40～12：10（各90分）

開講場所：長崎国際大学6104教室

単 位：2単位（教養科目）

対 象：「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生、一般社会人

カリキュラム・講師

回	月 日	内 容	講 師
1	5月10日	地域包括ケアにかかわる専門職と専門職連携の重要性	岩下 淳二（長崎国際大学薬学部）
2	5月10日	入院患者の退院支援・退院調整	永田 敬博（佐世保共済病院医療連携室）
3	5月10日※	在宅ケアマナジメント	堀田 智津子（あかがき内科循環器科）
4	5月17日	在宅訪問看護	越智 幸代（佐世保市医師会訪問看護ステーション）
5	5月17日	在宅訪問介護	秋月 眞理子（ハートフルケアたまがわ）
6	5月24日	在宅医療における栄養（1）	林 俊介（長崎国際大学健康管理学部）
7	5月24日	在宅医療における栄養（2）	林 俊介（長崎国際大学健康管理学部）
8	5月31日	患者・家族が望むこと	松尾 文子（認知症のひとと家族の会） 大野 健治（認知症のひとと家族の会）
9	6月14日	地域包括支援センターの機能と役割（1）	下平 和子（佐世保市長寿社会課）
10	6月14日	地域包括支援センターの機能と役割（2）	長塚 弘章（佐世保市相浦地域包括支援センター）
11	6月21日	地域密着型サービスについて	山辺 誠司（小規模多機能ホーム あかりの里）
12	6月21日	地域包括ケアにおける医師の役割	山之内 孝彰（長崎大学医学部医学科）
13	6月21日※	バリアフリーについて	原 哲弘（長崎国際大学人間社会学部）
14	6月28日	地域包括ケアにおける歯科医師の役割	介田 圭（長崎大学歯学部）
15	6月28日	地域包括ケアにおける薬剤師の役割	徳永 修（あんず薬局）

※第3回（5月10日）、第13回（6月21日）は13：00～14：30開講

履修生内訳

所 属		人 数
長崎国際大学	薬学部（薬学科）	1名
	人間社会学部（社会福祉学科）	11名
合計		12名

聴講生内訳

所 属		人 数
長崎県立大学	看護栄養学部（看護学科）	1名
合計		1名

一般社会人内訳

所 属	人 数	所 属	人 数
看護師	1名	ケアマネジャー	2名
保健師	2名	一般	6名
合計			11名



受講生の感想（一部抜粋・編集）

- チーム医療を担う専門職の専門性をより十分に活かし、患者さんやその家族の希望に合わせた支援を行っていくことが大切だと感じた。（薬学生）
- 今回の講義を受けて、地域包括ケアにかかわる専門職と専門職連携の重要性について、より関心を高めることができた。地域包括ケアシステムを実現させるために、福祉専門職は何をしたらいいか今後考えていきたい。（社会福祉学生）
- 講義を受けて、初めて知ることも多く、とても勉強になった。他の専門職ばかりに頼らず、他職種から頼られるような社会福祉士・介護福祉士になりたいと思う。（社会福祉学生）

「在宅医療概論」

概 要

在宅医療に携わる各職種また各職能が連携し、患者に対してどのようなアプローチを行うかについて学習する。講義はオムニバス形式で行う。

科 目

開講期間：平成26年9月27日（土）～平成26年11月15日（土）

開講時間：9：00～10：30、10：40～12：10（各90分）

開講場所：長崎国際大学6104教室

単 位：2単位（教養科目）

対 象：「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生、一般社会人

カリキュラム・講師

回	月 日	内 容	講 師
1	9月27日	在宅医療にかかわる多くの専門職と専門職連携の重要性	岩下 淳二（長崎国際大学薬学部）
2	9月27日	在宅医療における行政のサポート	大塚 俊弘（長崎県県央保健所）
3	9月27日※1	在宅医療におけるヘルスカウンセリング	古賀 義（長崎国際大学人間社会学部）
4	10月4日※2	第2回長崎県民フォーラム	長塚 弘章（佐世保市相浦地域包括支援センター）
5			松坂 誠應（長崎大学理事 副学長）
6	10月11日	在宅医療における薬局薬剤師の役割	徳永 修（あんず薬局）
7	10月11日	在宅医療における歯科医師の役割	疊屋 文人（佐世保市歯科医師会）
8	10月18日	在宅医療における医師の役割	矢野 捷介（長崎国際大学健康管理学部）
9	10月18日	在宅医療における薬剤師の役割	七嶋 和孝（ななしま薬局）
10	10月25日	在宅医療における調剤と薬の知識	仮屋蘭 博子（長崎国際大学薬学部）
11	10月25日	在宅医療における管理栄養士の役割	林 俊介（長崎国際大学健康管理学部）
12	11月8日	在宅医療における病院薬剤師の役割	川崎 浩一（佐世保市病院薬剤師会）
13	11月15日	在宅医療における健康サポート	熊谷 賢哉（長崎国際大学人間社会学部）
14	11月15日	在宅医療における緩和ケアの知識	山田 勝士（長崎国際大学薬学部）
15	12月13日	在宅医療における看護師の役割	吉原 律子（長崎県立大学看護栄養学部看護学科）

※1：第3回（9月27日）は13：00～14：30開講

※2：第4回、5回（10月4日）は13：30～15：30にアルカスSASEBO（佐世保市）で開催の「平成26年度第2回長崎県民フォーラム」

履修生内訳

所 属		人 数
長崎国際大学	薬学部（薬学科）	70名
	健康管理学部（健康栄養学科）	1名
	人間社会学部（社会福祉学科）	4名
合計		75名

一般社会人内訳

所 属	人 数
一般	2名
合計	2名



受講生の感想（一部抜粋・編集）

- これからさらに高齢化が進んでいくにあたって、在宅医療における地域の連携が非常に重要になってくると感じた。（薬学生）
- 自分の専門職をより理解し、他の分野との関わり合いをさらに深めていきたいと思った。（薬学生）
- これから自分たちの年代が高齢者を支えるために、医療に関わる人と連携をとることがとても大切であることが分かった。（栄養学生）

合同実習（動機付け）

「在宅チーム医療早期体験学習」

目 的

大学・学部間の垣根を越えて、地域の訪問看護ステーション、薬局等の施設担当者とともに在宅療養者宅への同行を通し、在宅療養支援の実際を知ること、多職種協働によるチームアプローチの重要性を考える。

一般目標

在宅療養者が必要とするケアに対して、地域の保健・医療・福祉チームがどのように連携し療養支援を行っているかを理解する。

行動目標

- ①在宅療養者およびその家族が必要としている様々なケアの内容について述べる（知識）
- ②在宅療養者を中心にしてどのような職種が関わっているかについて述べる（知識）
- ③地域における薬局・訪問看護ステーションの目的やチーム医療における役割について述べる（知識）
- ④学外で学ぶ上で、学生としての適切な態度・マナーに配慮する（態度）
- ⑤グループで学習成果をまとめ、学習プロセスを共有し討議する（態度）

科 目

開講期間：平成26年8月21日（木）～8月22日（金）

1泊2日の宿泊型

開講場所：長崎大学薬学部、訪問看護ステーション、薬局

単 位：1単位（教養科目）

対 象：「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生で、医療・保健・福祉・介護等の学科を専攻している1年次以上の学生



平成26年度 NICEキャンパス長崎
大学間連携実習報告書

日 程

8月21日（木）	8月22日（金）
8:30～ 合同オリエンテーション	6:30～ 起床
10:00～ 施設での体験学習 （訪問看護ステーション、薬局）	7:00～ 朝食、整理整頓など
17:00～ 宿泊施設へ移動 （宿泊先：長崎市日吉青年の家）	8:20～ 長崎大学薬学部へ移動
18:00～ 夕食	9:00～ グループワーク、ポスター作成
19:00～ セミナー	12:00～ 昼食
21:00～ グループワーク	13:00～ 学習報告会発表準備
22:30 就寝	13:30～ 学習報告会
	16:15～ 写真撮影
	16:30 解散

参加学生内訳

所 属		人 数
長崎大学	医学部（保健学科）	9名
	歯学部（歯学科）	1名
	薬学部（薬学科）	2名
長崎県立大学	看護栄養学部（看護学科、栄養健康学科）	15名
長崎国際大学	薬学部（薬学科）	7名
	健康管理学部（健康栄養学科）	5名
活水女子大学	看護学部（看護学科）	1名
合計		40名



受講生の感想（一部抜粋・編集）

- 歯科医師として、これからチーム医療が必要になってくることを訴え、歯科医師としてできることを考えていきたい。嚥下補助、口腔ケア、食事指導など重要なことはもちろん、様々なことで在宅ケアに関わっていきたい。（歯学生）
- 見学するまでは、訪問する看護師、主治医、薬剤師が連携してケアを行うものだと思っていた。しかし、それだけではなく、その他にもケアマネジャー、OT、PTなどの専門職も重要な役割を持っていて、さらに一緒に暮らしている家族はもちろん、一人暮らしの患者さんでも、離れて暮らす家族との連携が大切であると感じた。また、在宅での現状を見て、訪問薬剤師の必要性、訪問薬剤師の数の少なさを実感した。実際私も、大学で講義を受けるまで訪問薬剤師の存在さえ知らなかった。そのため、1年生の今の時期に知ることができ、考える機会があって本当によかったと思った。（薬学生）
- 今回の早期体験学習では、在宅を継続できることが目標であることや、1人に対しチームでサポートすることの重要性を学ぶことができた。しかし、まだ看護師における技術・知識の面で不十分であるため今後の学習において学生の間にできる学習や臨床に出てから学習できるものなど、これからもたくさんすることに興味を持ち勉学に励みたいと思う。（看護学生）
- 在宅医療という、私たちが大学で主に学ぶ病院での医療とは異なる現場を直に知り、新たな視点ができた。そこでのチーム医療や各専門職の仕事を見て驚き、感嘆した。想像以上に患者中心で回っているチーム医療はこれからの大学生活における大きな目標となり、見本となった。患者さんが住み慣れた家で過ごしたいという願いに親身に応えようと寄り添う姿勢も大いに学ぶことができた。自分の職種である作業療法士の役割であるリハビリを在宅医療に浸透させる方法を考えていきたい。（作業療法学生）
- 他学部生と交流することで今までとは違った視点で考えることができた。栄養の面から、看護の面から、歯学の面から、薬学の面からなど多面的に在宅医療を考えることで、つながっている部分、違う部分と見え方が違い、面白さを覚えた。グループワークでの交流が刺激になり、今まで以上に栄養について学ぶ必要があると考えた。発表の質疑応答で在宅医療の中心は誰かという質問を受けたが、主体は患者とその家族にあると思う。なぜなら、患者とその家族の治そうという意志、治したいという意志があってこそチーム医療ができ、その力が発揮されると思ったからである。医療従事者が主体となるのではなく、患者本人が主体となり、病気に立ち向かっていくことが必要だと思われる。その中で、私たち医療従事者、保健機関がサポートし、治療をすることが必要だと感じた。（栄養学生）

「地域包括ケア早期体験学習」

目 的

地域の在宅医療支援施設の担当者とともに在宅療養者宅への同行や地域包括支援センターの実務を学ぶことを通し、在宅療養支援の実際を知ること、多職種協働によるチームアプローチの重要性を考える。

一 般 目 標

高齢者をはじめとする地域住民の保健・医療・福祉・介護ニーズに対して、地域包括支援センターが果たしている役割や、地域の関係機関と専門職がどのように連携し支援を行っているのかを理解する。

行 動 目 標

- ①地域包括支援センターの4つの機能（総合相談、権利擁護、介護予防マネジメント、包括的・継続的ケアマネジメント）とその地域の特性について理解する。（知識）
- ②地域の高齢者を中心に、どのような機関や専門職、非専門職が関わっているかについて述べる（知識）
- ③学外で学ぶ上で、学生としての適切な態度・マナーに配慮する（態度）
- ④グループで学習成果をまとめ、学習プロセスを共有し討議する（態度）

科 目

開講期間：平成26年8月28日（木）～平成26年8月29日（金）

開講場所：長崎大学薬学部、長崎市内の地域包括支援センター

単 位：1単位（教養科目）

対 象：「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生で、医療・保健・福祉・介護等の学科を専攻している1年次以上の学生



平成26年度 NICEキャンパス長崎
大学間連携実習報告書

日 程

8月28日（木）	8月29日（金）
9：30～ 合同オリエンテーション	8：30～ 学生受付
10：30～ 昼食（移動時間含む）	9：00～ グループワーク、ポスター作成
13：00～ 施設での体験学習 （地域包括支援センター）	12：00～ 長崎大学薬学部へ移動
17：00～ 長崎大学薬学部で点呼、解散	13：00～ 学習報告会発表準備
	14：00～ 学習報告会
	15：30～ 写真撮影
	16：30 解散

参加学生内訳

所 属		人 数
長崎大学	医学部（保健学科）	4名
	薬学部（薬学科）	3名
長崎県立大学	看護栄養学部（看護学科）	15名
長崎国際大学	薬学部（薬学科）	3名
	健康管理学部（健康栄養学科）	2名
活水女子大学	看護学部（看護学科）	3名
合計		30名



受講生の感想（一部抜粋・編集）

- 全く知識のない状態からの学習だったが、今回この体験学習に参加して非常によかったと思う。地域包括支援センターについて最初に持っていたイメージは、高齢者や自宅療養者を集めて健康体操などを行う機関だと思っていた。実際には、高齢者が生活面で困っていることに対し支援を行う相談窓口であることが分かった。話を伺うにつれ、他人事ではなく自分の両親などもかわる可能性のある機関なのだということも分かった。（薬学生）
- 私はこれまで、地域包括支援センターは介護が必要な方の手助けをするのかと思っていたので、健康なうちから介護の予防をすることや、介護者側の支援もすることで高齢者を支えているのだと分かった。地域包括支援センターは自分が考えていたものと違って地域との関わりがとても強く、さらに少人数だが幅広い活動をして地域に欠かせない施設だということが分かった。（看護学生）
- 参加した会議では、認知症患者の徘徊対策について話し合われていた。認知症の方の徘徊に気付かず、山奥で亡くなっているケースなども多く、それらを解決するためにも、地域のつながりが大切になってくる。また、退院しても施設等の行き先が見つからない患者もいるということを病院の実態として語られていた。高齢者がますます増えていくなか、病院の飽和状態はさらに悪化するだろう。そのため、高齢者サロン等での介護予防の実践や、地域で協力していく姿勢が求められてくると学んだ。今回の実習で、地域包括支援センターの職務内容や、そこで働く職員のことについてしっかり学ぶことができた。そして現在の課題として上に述べたことや、知名度の低さがあり、介護サロンの積極的な開設や地域とのつながりを深めることの大切さを理解することができた。（作業療法学生）
- 今後、身の回りから様々な情報を集めて広めていくことが必要だと考えた。これは、学生のうちからできるもっとも簡単な方法だと思う。これからもっと専門的な学業をするうえで、地域包括支援センターや在宅医療はもちろん、様々な制度を意識し、勉学に励む必要があると感じた。管理栄養士という立場になるため、指導だけではなく支援ということにもっと力を入れるべきだと感じた。さらには、栄養という一つの事柄だけにとらわれるのではなく、多方面から物事を考えられるようにする必要があると感じた。（栄養学生）

合同授業（応用力）

「在宅がん治療特論」

概 要

在宅移行予定のがん患者に対するケアの方針を、多職種からなるチームで構築する。最終発表は模擬カンファレンスの形式で行う。

一 般 目 標

将来のチーム医療実践に向けて、患者および家族の情報を共有し、ケアの方針をたてる過程および模擬カンファレンスを経験することにより、各自の専門性を発揮しつつ、医療チームとして質の高い医療を提示する能力を習得する。

行 動 目 標

- ①在宅療養において患者や家族が有する問題をチーム内で共有する。
- ②在宅療養を支援する職種の視点と業務内容を理解する。
- ③問題解決のため、エビデンスの高い情報を活用する。
- ④問題解決のための患者・家族へのケアは、医学的問題のみでなく、全人的な対応が求められることを理解する。
- ⑤他職種と連携してチーム医療（在宅療養支援）を行うことの重要性を理解する。
- ⑥患者・家族への理解、問題やケアの方針、各役割について、討議のプロセスも含めわかりやすく発表する。

科 目

開講期間：平成26年11月15日（土）～平成26年11月29日（土）

開講場所：長崎大学薬学部研修室

単 位：1単位（教養科目）

対 象：「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生で、医療・保健・福祉・介護等の学科を専攻している
3年次以上の学生

日 程

開講日・開講場所	内 容
1日目(11月15日)	・オリエンテーション、自己紹介 ・レクチャー ①在宅がん治療 ②介護保険制度 ③退院支援と退院調整 ・事例1の提示(教員による模擬カンファレンス) ・事例2の提示 ・患者全体像の把握、学習項目の抽出
2日目(11月29日)	・グループ内で自己学習の成果報告 ・発表準備 ・模擬カンファレンスによる発表 ・パワーポイントによる発表 ・発表に対する質問、まとめ

履修生内訳

所 属		人 数
長崎大学	医学部（保健学科）	1名
	薬学部（薬学科）	5名
合計		6名

聴講生内訳

所 属		人 数
長崎大学	医学部（保健学科）	3名
	歯学部	1名
合計		4名



受講生の感想（一部抜粋・編集）

- 多学部で学習する機会はほとんどないため、今回の在宅がん治療特論はとても良い機会になった。今後も積極的に多職種の人とかかわり、自分にはない視点から患者を看るということを忘れずに専門性を高めていきたい。看護師は患者・家族と共に過ごし関わる機会が多いため、患者・家族のディマンズを汲み取りながら、本当に必要なニーズを考えていけると思う。そのニーズを多職種で共有し、考えを練ることで患者・家族にとって最善の方法で在宅療養、退院調整へと持っていけるのだと学んだ。患者や家族の言葉に耳を傾け、寄り添うことのできる看護を提供していきたいと思った。（看護学生）
- 今回は他学部学生との合同演習であり、自分の専門とは異なった視点からの患者のケアは気付かないようなことが多く、非常に勉強になった。しかし、実際の医療現場では気づかなければならない、気づいて当然だと思うのでこのような違った視点からもみることができるようになりたい。また、薬剤師は薬の専門家であるという責任を持って薬剤師としての役割を全うできるように、大学の残り2年と少しを過ごしていきたい（薬学生）
- 将来在宅がん治療に関わることがあれば、今回のこの在宅がん治療特論で学んだ知識を活かされればと思う。チーム医療に参加した時に高い専門性をもっていられるように、もっと勉強して知識を身につけて行かないといけないと思った（薬学生）

「在宅緩和ケア特論」

概 要

- ・在宅緩和ケアを必要とするがん患者および家族の、ケアの目標を多職種からなるチームで構築する。
- ・模擬事例を用いた在宅療養の実際から、患者、家族の目標、達成に向けた課題と支援内容（各専門職の役割）を具体的に検討し、「担当者による模擬カンファレンス」として発表する。

一般目標

将来のチーム医療・チームケアの実践に向けて、患者および家族の情報を共有し、在宅療養のケア方針を立てる過程および模擬カンファレンスを経験することにより、各自の専門性を発揮しつつ、チームとしての質の高い医療・ケアを提示する能力を習得する。

行動目標

- ①（在宅）緩和ケアについて理解する。
- ②在宅療養支援（チーム医療）における各専門職の視点とケア内容をチームとして理解する。
- ③在宅療養において患者や家族が有する課題（要望・ニーズ）をチーム内で共有する。
- ④課題解決に向け、エビデンスの高い情報を各専門性およびチームとして活用する。
- ⑤課題解決のケアは、患者・家族の医学的問題のみでなく、全人的な対応が求められることを理解する。
- ⑥課題解決の方法およびケアを討議することで、多職種連携の重要性を理解する。
- ⑦患者・家族の理解、課題と解決策の根拠と各役割を、討議のプロセスも含めわかりやすく発表する。

科 目

開講期間：平成26年5月24日（土）～平成26年6月7日（土）

開講場所：長崎県立大学シーボルト校地域・老年看護実習室

単 位：1単位（教養科目）

対 象：「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生で、医療・保健・福祉・介護等の学科を専攻している3年次以上の学生

日 程

開講日・開講場所	内 容
1 日目（5 月24日）	・オリエンテーション、自己紹介 ・緩和ケアに関するレクチャー ①在宅緩和ケアと症状コントロール ②在宅緩和ケアを必要とする患者・家族の療養支援と多職種の役割 ・事例1の提示（教員による模擬カンファレンス） ・事例2の提示、グループワーク （患者全体像の把握、今後の在宅療養の継続に向けた課題をグループで共有）
2 日目（6 月 7 日）	・オリエンテーション ・グループワーク （在宅療養の継続に向けた課題、必要な支援の整理） ・発表準備 ・模擬カンファレンスによる発表 ・全体討論、まとめ

履修生内訳

所 属		人 数
長崎大学	医学部（保健学科）	4名
	薬学部（薬学科）	1名
長崎県立大学	看護栄養学部（看護学科、栄養健康学科）	6名
合計		11名

聴講生内訳

所 属		人 数
長崎大学薬学部（薬学科）		1名
合計		1名

一般社会人内訳

所 属		人 数
長崎県立大学看護栄養学部看護学科教員		1名
一般		1名
合計		2名



受講生の感想（一部抜粋・編集）

- 今後にむけた自己課題として、他の職種の方は薬に関してわからないことが多く、専門用語も理解してもらえない場合が多かったため、他の職種の方にもわかりやすいように薬、病態の説明を心掛ける必要がある。薬剤師の役割に関して未だ認知してもらえてない状態のため、自分の専門性が発揮できるところを考え、積極的にケアに参加していく姿勢が必要であり、他職種から薬に関して信頼される存在になるべきであると感じた。まずは、医療用麻薬や抗がん剤、栄養剤などの知識をしっかりと身に付け、目の前の患者さんに考えられる問題点を多く素早く抽出できるように推論する能力が必要だと感じた。そして他の職種とうまく情報の共有、交換ができるコミュニケーション能力を身につけようと思う（薬学生）
- 模擬カンファレンスを実際にやってみて、患者さんが周りにサポートが常にあることを認識でき、安心してもらえるようなコミュニケーションをとれるようになりたい。また、安心感を与えられるような雰囲気作りも大切だと感じた。今後実習などで患者さんに関わる機会がたくさんあるので、患者さんとのコミュニケーションでは、難しい専門用語は使わず、わかりやすい言葉で伝えること、理解してもらえたか確認することを今後の課題にしたい。（看護学生）
- 今回、薬学科、作業療法専攻、栄養健康学科専攻、看護学科の人といったさまざまな職種を目指す人とグループワークを行ったが、まず簡潔にいうとすごくいい経験をさせてもらったと思う。自分は看護学科で今まで何個かの事例を検討してきて、当たり前だが看護師の視点からの検討しかしてこなかった。しかし、今回、さまざまな職種の人と話すことで、自分が考えもしていなかったことを考えてくれ、新たな発見をすることができた。また、自分が知らない分野の知識も教えてもらい、事例における理解が深まった。また、一人の対象者がこれからよりよい生活を過ごすというみんなが同じ目的に向かって考えていくという過程をしていく中で、これがチーム医療なのだと感じる事ができた。（看護学生）
- 他の職種と連携するということを肌で感じられた。そして、職種間で敬意を持ちながら進めることが出来た。反省する点は話し合いの中では栄養補助剤が必要であるか、どのような状態の物なのかを伝えるときにもう一人の栄養学科の学生に確認しながら紹介した。実際の現場では様々な職種の中で、専門としている内容を知っているのは自分だけなので、責任は大きく知識も確実に持っていることが必要だと思った。しかしグループワークを通してチーム医療のメリットをたくさん感じられた。様々な職種がいるので、視点がそれぞれ違うので幅広く提案が出来た。さらに、患者への提案の前に話し合いをしてまとめているので、担当者間での食い違いも少なく簡潔で分かりやすく患者に伝えられると思った。患者とその家族を支援したいという気持ちは同じなので、最終的な目標を一つにしてチーム一丸となってサポートできることが分かった。そして、患者もサポートされているという安心を感じられるのではないかなと思った。（栄養学生）

「地域包括ケア特論」

概 要

- ・日常生活において何らかの支援を必要とする利用者（患者）および家族の、支援計画を多職種からなるチームで検討する。
- ・模擬事例を用い、利用者（患者）及び家族の目標の達成に向けた課題と支援内容を具体的に検討し発表する。

一 般 目 標

地域包括ケアの実践に向けて、利用者（患者）および家族の情報を共有し、生活支援計画を立てる過程を経験することにより、各自の専門性を発揮しつつ、チームとしての質の高い生活支援計画を提示する能力を習得する。

行 動 目 標

- ①地域包括ケアについて理解する。
- ②地域包括支援センターについて理解する。
- ③介護保険制度について理解する。
- ④日常生活における利用者（患者）および家族が有する課題（要望・ニーズ）をチーム内で共有する。
- ⑤課題解決に向け、エビデンスの高い情報を各専門性およびチームとして活用する。
- ⑥課題解決の方針および支援内容を討議することで、多職種連携の重要性を理解する。
- ⑦利用者（患者）および家族の理解、課題と解決策の根拠と各役割を、討議のプロセスも含めわかりやすく発表する。

科 目

開講期間：平成26年11月8日（土）～平成26年11月22日（土）

開講場所：長崎国際大学6102教室

単 位：1単位（教養科目）

対 象：「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生で、医療・保健・福祉・介護等の学科を専攻している3年次以上の学生

日 程

開講日・開講場所	内 容
1 日目(11月 8 日)	・オリエンテーション、自己紹介 ・レクチャー ①地域包括ケアと介護予防マネジメント ～多職種による介護予防・支援計画書立案～ ②地域包括ケアにおける医師の係わり ③地域包括ケアにおける歯科医師の係わり ④地域包括ケアにおける薬剤師の係わり ⑤地域包括ケアにおける訪問看護師の係わり ・事例1の提示 介護予防サービス・支援計画表の説明 ・事例2の提示 患者全体像の把握、学習項目の抽出
2 日目(11月22日)	・グループワーク グループ内で自己学習の内容共有 介護予防サービス・支援計画表作成 発表準備 ・グループ発表 ・全体討論、まとめ

履修生内訳

所 属		人 数
長崎国際大学	薬学部（薬学科）	5名
	健康管理学部（健康栄養学科）	1名
	人間社会学部（社会福祉学科）	1名
合計		7名

聴講生内訳

所 属		人 数
長崎国際大学	人間社会学部（社会福祉学科）	1名
合計		1名

一般社会人内訳

所 属		人 数
一般		1名
合計		1名



受講生の感想（一部抜粋・編集）

- 地域包括ケアシステムでは、いろんな専門職だけではなく、住宅や地域住民も含まれていて、それぞれの地域に合ったサービスがあることを学んだ。生活支援計画表作成にあたっては、それぞれの学科で見る視点が違ったため、意見し合うことで最善のものができていくのだと感じ取ることができ、多職種連携は重要であると改めて感じた。（薬学生）
- 自分の考えを相手にわかりやすく伝えるために、コミュニケーション力が必要だと思った。今後は、現在理解している知識について根拠を踏まえて再確認し、更に理解を深め、新しい知識、技術を主体的に取り入れ、より専門性を高めるよう努めていかなければならないと考える。（社会福祉学生）

合同実習（実践力）

「在宅がん医療・緩和ケア実習」

目 的

本実習は、医療・保健・福祉等の学科を専攻している学生が、自己の目指す専門性を伸ばすとともに、がん患者に対する病院から在宅へ切れ目のない療養支援や在宅緩和ケアにおけるチームアプローチについて学ぶことを目的とする。そのため、長崎大学病院や在宅療養支援(歯科)診療所などでの実習を行う。また、他大学の他学科生とのグループによる共同作業を通して、多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門職としての主体性・協調性を修得することがねらいである。

一 般 目 標

病院から在宅へ切れ目のない支援や在宅がん医療・緩和ケアにおける多職種協働の実践や重要性について理解する。

行 動 目 標

- ①在宅療養者およびその家族が必要としている在宅がん医療・緩和ケアの内容について述べる（知識）
- ②病院から在宅への切れ目のない療養支援の内容について述べる（知識）
- ③在宅がん医療・緩和ケアにおけるチームアプローチについて述べる（知識）
- ④学外で学ぶ上で、学生としての適切な態度・マナーに配慮する（態度）
- ⑤グループで学習成果をまとめ、全員で討議することで、学びを発展させる（態度）

科 目

開講期間：平成26年9月3日（水）～平成26年9月5日（金）

開講場所：長崎大学病院、在宅療養支援（歯科）診療所、長崎大学薬学部

単 位：2単位（教養科目）

対 象：「NICEキャンパス長崎」単位互換履修生で、医療・保健・福祉・介護等の学科を専攻している
高学年次（原則）の学生

日 程

実習日・実習場所	内 容
1日目(9月3日) 長崎大学病院	9:00～ オリエンテーション 10:00～ セミナー 13:00～ 実習(診療科、診療部門、チームなど6カ所) 16:00～ オープンカンファへ参加(地域医療連携センター) 17:00～ 解散
2日目(9月4日) 長崎・佐世保地区の在宅 療養支援(歯科)診療所等	9:00～ 実習 ・在宅療養支援診療所 8カ所 ・在宅療養支援歯科診療所 3カ所 17:00～ 長崎大学薬学部にて解散
3日目(9月5日) 長崎大学	10:00～ グループワーク 13:00～ 発表準備 14:00～ 学習報告会

参加学生内訳

所属		人数
長崎大学	歯学部(歯学科)	6名
	薬学部(薬学科)	5名
長崎県立大学	看護栄養学部(看護学科)	7名
長崎国際大学	薬学部(薬学科)	3名
	健康管理学部(健康栄養学科)	2名
	人間社会学部(社会福祉学科)	2名
合計		25名



受講生の感想 (一部抜粋・編集)

- 今回の実習で、在宅医療で歯科医師の役割が特に摂食・嚥下の分野において重要であると感じた。しかし、現状として他学部の学生は歯科医師が摂食・嚥下に係わることを認知していなかった人が多かった。おそらく実際の在宅医療の現場でも認知していない人がいると思うので、必要とされるのを待つのではなく、歯科医師のほうから摂食・嚥下できますと主張する必要がある。自信を持ってできることを主張するためにも、摂食・嚥下に関して知識や経験を深めたい。また、チーム医療でアプローチするためにも、お互いの職種がどのようなことを得意としているのか理解できるよう学習したい。(歯学生)
- 3日間の在宅がん医療・緩和ケア実習を通して、病院から在宅への切れ目のない支援において多職種連携および情報共有の重要性を改めて感じた。その中で将来薬剤師としてどのように薬学的知識を活かせるか考え、多職種連携の中で自分の専門性を発揮させるため、また他職種と意見交換・情報共有を行うためには、もっと自分の専門分野の知識量を増やすとともに、他の職種の専門性を理解しておかないと連携できないと感じた。今回の実習を通して、多職種がどのようなことを行っているのか、どのような考えをもっているのか、薬剤師についてどのように考えているのか、この中で将来薬剤師として自分に何ができるのか、どのように連携が行われていくのか考えることができ、とても貴重な経験となった。(薬学生)
- これまで在宅領域の学習をしてきたが、医療ソーシャルワーカー(MSW)について、役割等は理解していたものの、実際の働く現場を十分にイメージすることはできなかった。そのためMSWの方々の下で実習できたことは自身にとって非常に有意義な学びとなった。患者・家族がMSWとの面談を通して一番大事にしていたことは、いかに安心な医療が受けられるかということであった。それは治療を含めた身体的な面、しっかりとサポートされているという精神的な面、そして経済的な面という多様な要素を含めた「安心」である。切れ目のない療養支援において、施設と在宅の間にはっきりとした境界が存在するのではなく、継続的な両者間の密なやり取りやつながりがより患者・家族の安心感を高め、より充実した在宅医療の提供につながるということが分かった。(看護学生)

必修科目

合同実習（基礎力）

「在宅看護論」

概 要

疾病や障害があっても、「当たり前の暮らし」をおくことを保障する在宅看護の役割と働きを理解する。在宅療養における生活支援と、生活の中における医療の継続に視点を置き、医療・保健・福祉の連携と協働における在宅看護師の役割を理解する。

到達目標

- ①社会の変化と在宅看護の歴史的変遷の関連を理解する。
- ②在宅看護を取り巻くシステムを理解できる。
- ③在宅看護の対象と、在宅看護の展開方法が理解できる。

科 目

開講期間：平成26年10月7日（火）～平成27年2月3日（火）
 開講場所：長崎県立大学シーボルト校
 単 位：2単位（専門必修科目）
 対 象：長崎県立大学看護栄養学部看護学科2年次の学生

日 程

回	内 容	
1	期待が高まる在宅看護	在宅医療・在宅看護の動向と社会的背景
2	在宅看護の歴史と現状	在宅看護の歴史と現状（チームで行う在宅ケア）
3	在宅看護をめぐる法・制度	在宅看護の根拠法と諸制度
4	在宅ケアにおける連携とマネジメント	地域包括ケアシステムと関連職種の連携
5	在宅看護の倫理と基本理念	療養者中心の医療・看護と支援者に求められる看護倫理
6	在宅看護の対象	在宅療養を必要とする人と看護の成立条件
7	在宅療養を支える看護	在宅看護の特徴と訪問看護ステーション
8	在宅看護の実際	訪問看護過程の実際
9	在宅看護の実際	電話及び初回訪問時の情報収集と記録
10	事例学習（1）	グループによる看護計画立案
11	事例学習（2）	グループによる看護計画立案
12	事例発表	発表
13	事例発表	発表
14	在宅看護管理（1）	訪問看護ステーションの運営と管理の基礎
15	在宅看護管理（2）	訪問看護時の医療安全（感染防止、リスクマネジメント）
評価	定期試験 80% 発表 20%	

※長崎県立大学看護栄養学部 平成26年度シラバスより抜粋

合同実習（応用力）

「薬物治療実践学」

概 要

超高齢社会における在宅療養を支援することは重要である。そのため、在宅療養支援に携わるそれぞれの専門職の職能を理解して行動できる次世代の医療職（薬剤師）を育成する。

授業のねらい

薬学生に対しては「薬局薬剤師の職能に関するアドバンス教育」を行う。

授業方法(学習指導法)

スライドを使った講義と受講者による小グループ討論を行う。

到達目標

在宅療養支援に携わるそれぞれの専門職の職能を理解し、地域医療の中で薬局薬剤師が取り組む共同薬物治療管理（CDTM）の内容について説明できる。地域医療の中での医療・介護・福祉の専門職間の連携（多職種協働）の重要性と薬局薬剤師、看護師、医師等のそれぞれの専門職が果たすべき役割について説明できる。

科 目

開講期間：平成26年4月14日（月）～平成26年4月21日（月）

開講場所：長崎大学

単 位：1単位（必修科目）

対 象：長崎大学薬学部薬学科6年次の学生

日 程

回	内 容	
1	これからの地域薬局のあり方と薬局薬剤師の目指す薬物治療	薬剤師の大学教員による講義
2	薬局薬剤師が支援するセルフメディケーション	薬局薬剤師による講義
3	薬局薬剤師がはじめるフィジカルアセスメント	薬局薬剤師による講義
4	在宅ケアにおけるチーム医療Ⅰ	グループでの討論
5	在宅ケアにおけるチーム医療Ⅱ	グループでの討論
6	在宅ケアにおける看護職との連携	看護職の大学教員による講義
7	高齢者の在宅ケア	医師の大学教員による講義
8	総合演習	全体での討論
評価	授業中の課題に対する積極的な取組状況…50%、レポート…50%の総合評価とする。	
備考	毎回の授業内容をよく復習しておくこと 「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎」からのNICEキャンパス長崎登録科目	

※長崎大学薬学部 平成26年度シラバスより抜粋

県民フォーラム

第1回長崎県民フォーラム

テーマ「考えよう!これからの在宅ケアを」

日 時：平成26年7月5日（土）14：00～16：00

会 場：長崎大学文教スカイホール（グローバル教育・学生支援棟4階）

参加者数：118名

内 容

開会あいさつ

長崎大学医学部保健学科長

在宅医療・福祉コンソーシアム長崎本部委員会委員 田中 悟郎

事業報告

「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎の目指す取組」

長崎大学薬学部准教授

在宅医療・福祉コンソーシアム長崎専任教育職員 江頭 かの子

取組紹介

「長崎県における訪問リハビリテーションの状況報告」

社会福祉法人十善会 十善会訪問看護ステーション

公益社団法人長崎県理学療法士協会理学療法士 清水 章宏

講演

「在宅ケアを支える訪問リハビリテーション」

一般社団法人日本訪問リハビリテーション協会 会長

医療法人社団輝生会 法人本部 教育研修局次長 理学療法士 宮田 昌司

閉会あいさつ

長崎大学薬学部教授

在宅医療・福祉コンソーシアム長崎推進委員会委員長 中嶋 幹郎



第2回長崎県民フォーラム

テーマ「考えよう!これからの在宅ケアを」

日 時：平成26年10月4日（土）13：30～15：30
会 場：アルカスSASEBO 3階大会議室
参加者数：138名

内 容

開会あいさつ 長崎国際大学理事長 安部 直樹

事業報告 「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎の目指す取組」
長崎国際大学薬学部准教授
在宅医療・福祉コンソーシアム長崎専任教育職員 岩下 淳二

講演① 「自分で選ぶ在宅ケア!地域包括支援センターから見えるそれぞれの形」
佐世保市相浦地域包括支援センター長 長塚 弘章

講演② 「これからの在宅ケアのあるべき姿」
長崎大学理事・副学長
長崎大学医学部保健学科教授 松坂 誠應

閉会あいさつ 長崎国際大学薬学部長
在宅医療・福祉コンソーシアム長崎本部委員会副委員長 榊原 隆三



第3回長崎県民フォーラム

テーマ「考えよう!これからの在宅ケアを」

日 時：平成26年12月6日（土）14：00～16：00
会 場：長崎大学中部講堂
参加者数：225名

内 容

開会あいさつ 長崎県立大学副学長 正木 基文

事業報告 「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎」取組紹介
長崎県立大学看護栄養学部看護学科特任准教授
在宅医療・福祉コンソーシアム長崎専任教育職員 吉原 律子

講 演 「がん・認知症とともにこれからを生きる、私や家族の選択、そしてその先にあるもの・・・」
医療法人社団裕和会理事長 長尾クリニック院長 長尾 和宏

閉会あいさつ 長崎県立大学看護栄養学部看護学科教授
在宅医療・福祉コンソーシアム長崎本部委員会副委員長 松本 幸子



教育セミナー

教育セミナー

日 時：平成26年4月21日（月） 18：30～20：00
会 場：長崎大学薬学部5階研修室
参加総数：20名

内 容

演 題 「がん患者の在宅療養支援のための薬局・薬剤師の役割と多職種連携」

講 師 一般社団法人日本在宅薬学会理事長
在宅医療・福祉コンソーシアム長崎評価委員会委員 狭間 研至



本部委員会会議

第1回本部委員会

日 時：平成26年5月29日（木） 15：00～16：30
場 所：長崎大学第1会議室（事務局3階）
参加総数：25名

1. 報告事項

- 1-1 臨時本部委員会（書面会議）協議結果について
- 1-2 平成25年度事業の成果について
- 1-3 平成26年度事業の推進計画について
 - ・平成26年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）調書について
 - ・交付内定通知（連携大学の調整額配分額）について
 - ・「NICEキャンパス長崎」登録科目について

・教育セミナーについて

- 1-4 各種委員会の委員変更について

2. 協議事項

- 2-1 組織体制変更に伴うポンチ図の変更について
- 2-2 平成26年度事業の推進計画について
 - ・長崎県民フォーラムについて
- 2-3 平成24年度採択取組の中間評価実施時期の変更について
- 2-4 第2回本部委員会開催日程について

第2回本部委員会

日 時：平成27年3月4日（水） 15：00～16：30
場 所：長崎大学第1会議室（事務局3階）
参加総数：18名

1. 報告事項

- 1-1 平成26年度事業について
 - ・NICEキャンパス長崎開講科目
 - ・長崎県民フォーラム
- 1-2 評価委員会の開催について
- 1-3 平成26年度年間活動報告書について
- 1-4 平成27年度大学改革推進等補助金調書の提出について
- 1-5 大学間連携共同教育推進事業中間評価の実施について

2. 協議事項

- 2-1 平成27年度事業計画策定について
- 2-2 平成27年度本部委員会開催スケジュールについて

3. その他



推進委員会会議

第1回推進委員会

日 時：平成26年5月19日（月） 15：00～16：30
場 所：長崎大学第2会議室（事務局3階）
参加総数：27名

1. 報告事項

- 1-1 臨時本部委員会（書面会議）開催について
 - ・本コンソーシアム連携機関へ認定NPO法人長崎在宅Dr.ネットが加入することの認可について
- 1-2 平成25年度事業の成果について
- 1-3 平成26年度事業推進計画について
 - ・平成26度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）調書について
 - ・交付内定通知（連携大学の調整額

配分額）について

- ・「NICEキャンパス長崎」登録科目について
- ・教育セミナーについて

- 1-4 各種委員会の委員変更について

2. 協議事項

- 2-1 組織体制変更に伴うポンチ図の変更について
- 2-2 平成26年度事業の推進計画について
 - ・長崎県民フォーラムについて
- 2-3 平成24年度採択取組の中間評価実施時期の変更について
- 2-4 第2回推進委員会開催日程について

第2回推進委員会

日 時：平成27年2月9日（月） 16：00～17：30
場 所：長崎大学第2会議室（事務局3階）
参加総数：26名

1. 報告事項

- 1-1 平成26年度事業取組状況について
 - ・NICEキャンパス長崎開講科目
 - ・長崎県民フォーラム
- 1-2 評価委員会開催について

2. 協議事項

- 2-1 平成26年度年間活動報告書作成について
- 2-2 大学間連携共同教育推進事業中間評価の実施等について

- 2-3 平成27年度事業計画策定について

- 2-4 平成27年度補助金調書の作成

- 2-5 平成27年度推進委員会開催スケジュール

3. その他



運営委員会会議

第1回運営委員会

日 時：平成26年4月24日（木） 16：00～17：00
場 所：長崎大学第3会議室（事務局2階）
参加総数：14名

1. 報告事項

- 1-1 補助金に関わる文部科学省提出書類について
- 1-2 本コンソーシアム連携機関へ認定NPO法人長崎在宅Dr.ネットが加入することの認可について
- 1-3 各種委員会の委員変更について
- 1-4 平成25年度事業について
 - ・第3回県民フォーラムアンケート結果について
 - ・在宅がん治療・緩和ケア合同実習トライアルについて
- 1-5 平成26年度事業について
 - ・薬物治療実践学について

- ・教育セミナーについて
- ・学会での成果発表について

2. 協議事項

- 2-1 組織体制変更に伴うポンチ図の変更について
平成26年度事業計画について
 - ・平成26年度「NICEキャンパス長崎」登録科目について
 - ・長崎県民フォーラムについて
- 2-2 平成24年度採択取組の中間評価実施時期の変更について
- 2-3 平成26年度運営委員会の開催スケジュールについて

第2回運営委員会

日 時：平成26年7月28日（月） 16：00～17：00
場 所：長崎大学第3会議室（事務局2階）
参加総数：15名

1. 報告事項

- 1-1 平成26年度第1回推進委員会、平成26年度第1回本部委員会の議事内容について
- 1-2 平成26年度事業の進捗状況について
 - ・平成26年度「NICEキャンパス長崎」登録科目について
前期開講科目：「在宅がん治療概論」、「在宅緩和ケア特論」、「地域包括ケア概論」
 - ・平成26年度第1回長崎県民フォーラムについて
 - ・学会での成果発表について

2. 協議事項

- 2-2 平成26年度事業の実施計画について
 - ・平成26年度「NICEキャンパス長崎」登録科目について
夏季休暇開講科目：「在宅チーム医療早期体験学習」、「地域包括ケア早期体験学習」、「在宅がん医療・緩和ケア実習」
後期開講科目：「在宅ケア概論」、「在宅がん治療特論」、「在宅緩和ケア概論」、「在宅医療概論」、「地域包括ケア特論」
 - ・平成26年度長崎県民フォーラムについて
- 2-2 平成26年度運営委員会の開催スケジュールについて

3. その他

第3回運営委員会

日 時：平成26年10月16日（木） 15：00～16：00
場 所：長崎大学第2会議室（事務局3階）
参加総数：10名

1. 報告事項

- 1-1 人事について
- 1-2 平成26年度事業の進捗状況について
 - ・前期開講科目履修者について
 - ・実習アンケート集計結果について
 - ・後期開講科目履修状況について
 - ・平成26年度第2回長崎県民フォーラムについて
 - ・学会での成果発表について

2. 協議事項

- 2-1 平成26年度事業計画について
 - ・平成26年度「NICEキャンパス長崎」登録科目について
後期開講科目：「在宅ケア概論」、「在宅緩和ケア概論」、「在宅医療概論」、「在宅がん治療特論」、「地域包括ケア特論」
 - ・平成26年度第3回長崎県民フォーラムについて
- 2-2 平成27年度「NICEキャンパス長崎」科目登録について
- 2-3 平成26年度運営委員会の開催スケジュールについて

3. その他

第4回運営委員会

日 時：平成26年12月19日（金）

参加総数：18名

書面会議

1. 報告事項

- 1-1 後期開講科目履修状況について
- 1-2 第3回長崎県民フォーラムについて
- 1-3 大学間連携実習報告書について
- 1-4 中間評価について

2. 協議事項

- 2-1 評価委員会資料について
- 2-2 平成27年度「NICEキャンパス長崎」科目登録について

第5回運営委員会

日 時：平成27年1月29日（木） 15：00～16：30

場 所：長崎大学第3会議室（事務局2階）

参加総数：12名

1. 報告事項

- 1-1 平成26年度事業取組状況について
 - ・NICEキャンパス長崎開講科目
 - ・長崎県民フォーラム
- 1-2 評価委員会開催について

2. 協議事項

- 2-1 平成26年度年間活動報告書作成について
- 2-2 大学間連携共同教育推進事業中間評価の実施について
- 2-3 平成27年度事業計画策定について

3. その他

第6回運営委員会

日 時：平成27年3月23日（月）

参加総数：18名

書面会議

1. 報告事項

- 1-1 第2回推進委員会の議事について
- 1-2 第2回本部委員会の議事について
- 1-3 専任教員作業会議について

2. 協議事項

- 2-1 平成27年度事業計画具体案について
- 2-2 平成27年度運営委員会開催スケジュールについて



学会等参加

第46回日本医学教育学会大会

日 時：平成26年7月18日（金）～ 19日（土）
会 場：和歌山県立医科大学紀三井寺キャンパス
高度医療時育成センター・講堂（和歌山県和歌山市）
発表形式：一般演題ポスター
発表テーマ：「在宅がん医療・緩和ケアを担う人材育成を目的とした大学間合同専門職連携教育の展開」

第7回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会

日 時：平成26年9月20日（土）～ 21日（日）
会 場：学生総合プラザ STEP（新潟県新潟市）
発表形式：一般口演
発表テーマ：「医療・福祉専門職を目指す学生が、合同実習から何を学んだのか（実習後のレポートからのまとめ）」

「実践社会薬学の確立と発展に資する薬剤師養成プログラム」シンポジウム

日 時：平成26年9月29日（月）
会 場：千葉大学薬学部創立120周年記念講堂（千葉県千葉市）
発表形式：口演
発表テーマ：「多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成拠点」

平成27・28年度の事業計画

27
年度

平成27年度の補助事業の目的を達成するため、下記のスケジュールで事業を推進し、計画した事業の完成を目標とした取組を行う。

- ①本部委員会・推進委員会・運営委員会の各種委員会を定期的を開催することに加えて、事業推進状況の打合せを行う作業会議を頻繁に開催し、実行性のある連携教育を展開するための体制を構築する。
- ②立ち上げた情報発信・広報活動体制を継続し、そのシステムを検証することで広報実施のあり方を検討するとともに、ホームページ、マスメディア等を活用した情報発信を行う。
- ③平成26年度にNICEキャンパス長崎に科目登録し、開講した大学間合同による在宅がん医療・緩和ケアをテーマとした13科目を、引き続きカリキュラムを改善し継続して実施するとともに、それら全ての科目をモジュール化する。
- ④多職種協働による在宅がん医療・緩和ケア教育を推進する指導者養成を目的とした教育セミナー・ワークショップを開催するとともに、大学教育を支援する地域包括ケアに携わる専門職の実践教育指導能力向上を目的として、学生参加型研修会等を企画し、県内の各地区で開催する。
- ⑤多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアをテーマとした大学教育プログラムの立案・企画に資する研修等へ参加する。
- ⑥全国の多職種協働による在宅がん医療・緩和ケア関連学会で取組の成果を報告し、全国の大学関係者等へ向けて情報発信する。
- ⑦地域等へ本事業活動の情報を発信することを目的とした長崎県民フォーラムや長崎がんフォーラムを開催する。
- ⑧事業取組4年目までの成果に対して、プログラム評価委員会による第3回中間評価を受け、最終年度の事業計画へフィードバックする。
- ⑨事業評価・改善提案と本年度の活動実績をまとめた報告書を作成する。



28

年度

平成28年度の補助事業の目的を達成するため、下記のスケジュールで事業を推進し、5年間の事業を完成させ、計画した初期の目標を達成する。そして、平成29年度以降の事業継続に向けた取組組織を整備する。

- ①本部委員会・推進委員会・運営委員会の各種委員会を定期的を開催することに加えて、事業推進状況の打合せを行う作業会議を頻繁に開催し、実行性のある連携教育を展開するために構築した体制の充実を図り、平成29年度以降の事業継続に向けた取組組織を整備する。
 - ②立ち上げた情報発信・広報活動体制を継続し、そのシステムを検証することで広報実施のあり方を検討するとともに、様々な媒体を活用した情報発信を行う。
 - ③平成27年度にNICEキャンパス長崎に科目登録し、モジュール化した大学間合同による在宅がん医療・緩和ケアをテーマとした13科目を、引き続きカリキュラムを改善し継続して実施することで、大学教育プログラムを体系化する。
 - ④多職種協働による在宅がん医療・緩和ケア教育を推進する指導者養成を目的とした教育セミナー・ワークショップを開催するとともに、大学教育を支援する地域包括ケアに携わる専門職の実践教育指導能力向上を目的として、学生参加型研修会等を企画し、県内の各地区で開催する。
 - ⑤多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアをテーマとした大学教育プログラムの立案・企画に資する研修等へ参加する。
 - ⑥全国の多職種協働による在宅がん医療・緩和ケア関連学会で取組の成果を報告し、全国の大学関係者等へ向けて情報発信する。
 - ⑦地域等へ本事業活動の情報を発信することを目的とした長崎県民フォーラムや長崎がんフォーラムを開催する。
 - ⑧事業取組5年間の成果に関する報告を行い、プログラム評価委員会による最終評価を受け、本事業の成果に関する総括を行う。
 - ⑨事業評価・改善提案と本年度及び事業期間全体の活動実績をまとめた報告書を作成する。
-



点検・評価

評価委員会会議

評価委員会

日 時：平成27年1月20日（火）
書面会議

1. 報告事項

平成24・25年度2年間の取組実施状況とその成果について

2. 協議事項

平成26年度の取組の評価について

中間評価結果

評価委員会では、丸山徹評価委員長のもと7項目について以下の3段階の評価基準で評価を実施。

【 評価基準 S（当初予定以上）、A（当初予定通り）、B（当初予定以下） 】

在宅医療・福祉コンソーシアム長崎評価委員会ピアレビュー （第2回中間評価：平成26年度）

評価委員長 丸山 徹

平成26年度の在宅医療・福祉コンソーシアム長崎の大学間連携共同教育推進事業取組の実施状況を点検するため、前回（平成25年度）の評価委員会の折りに協議したとおり、平成27年1月20日付け送付資料に基づく書面会議にて第2回目の評価委員会を開催した。

評価項目は、①本部委員会・推進委員会・運営委員会の各種委員会の定期的な開催、並びに事業推進計画の打合せを行う作業会議の頻繁な開催による実行性ある連携教育を展開するための体制強化、②広報活動・成果発表・情報発信の継続及び広報実施のあり方の検討、③低学年向け合同授業（講義）5科目及び高学年向け合同授業（講義・演習）2科目の継続開講、並びに新規3科目の「NICEキャンパス長崎」への科目登録・開講、④低学年向け合同実習2科目の継続開講、並びにトライアルした高学年向け合同実習1科目の「NICEキャンパス長崎」への科目登録・開講、⑤本事業活動の情報発信を目的としたフォーラム等の開催、⑥多職種協働による在宅がん医療・緩和ケア教育に関する教育セミナー等の開催、⑦評価委員会による第2回中間評価の実施の7項目で、取組内容に対するコンソーシアム側の自己評価資料（「平成26年度1年間の取組実施状況とその成果」及び「自己評価付き評価シート」）を各評価委員が検討した結果に基づき、委員長としてのピアレビュー

をまとめた。①の組織運営体制については、在宅医療において全国的にその実績が高く評価されている認定NPO法人長崎在宅Dr.ネットが新たにコンソーシアムに加わり連携組織が拡充したことを高く評価する委員があり、自己評価（A）を超える結果であった（S（3名）、A（5名））。②～⑤の広報・情報発信体制、大学間単位互換科目開発、並びにフォーラム開催といった本取組推進の中核にあたる項目については、全て同様に、計画のとおり着実に実行されているとの意見が多かったが、予定以上の成果が得られているとの意見もあり、これら4項目については自己評価（A）を超えるS評価を付けた委員もいた（S（1名）、A（7名））。個別意見としては、1）マルチチャンネルによる広報が実施されている、2）科目数が増え、多数の学生が履修している、特に低学年向けと高学年向けに別の実習科目を開講している、3）情報発信を目的としたフォーラムへ多数の市民が参加しているのがすごい、という高評価の意見があった。また、その一方で、4）広報については種々の試みがなされているが、その成果を何らかの形で点検すべきではないか？、5）多数の学生が授業へ参加していることは評価できるが、科目によっては履修者が少ない科目もある。また、実習に医学生の参加がないことは教育効果を下げてしまうので次年度以降は医学生の参加を増やすことが課題であるという提言が示された。⑥については、当初の予定通りに実施されていることから、全員一致で自己評価（A）と同じ結果が提示された。⑦については、前回の評価委員会の協議結果のとおりに書面会議が開催されたため、自己評価とほぼ同等の結果であった（A（7名）、記載なし（1名））。また、今回の送付資料の中に、前回の評価委員会ピアレビューの内容に基づいた工夫・改善点が記されていたことは、本評価委員会の提言を真摯に受け止め、コンソーシアムの事業実施計画を改善しようとしている姿勢がうかがえて好印象であった。

以上示したように、平成26年度の取組については、全ての項目について、当初予定のとおりあるいは予定以上に実施されていることを確認することができた。また、次年度の事業計画内容が妥当であると判断した。平成26年10月より本プロジェクトの事業推進責任者が長崎大学の松坂理事・副学長（教学担当）へ引き継がれ、すでに連携3大学では支援期間終了後の取組継続を見据えた活動を開始している。これから2年間の取組の更なる展開を大いに期待したい。

自己点検ならびに評価結果

平成26年度	実施状況（平成26年12月現在）	自己評価	評価結果
本部委員会・推進委員会・運営委員会の各種委員会の定期的な開催、並びに事業推進計画の打合せを行う作業会議の頻繁な開催による実行性ある連携教育を展開するための体制強化	平成26年4月から認定NPO法人長崎在宅Dr.ネットが新たな連携組織として加わり、3大学4自治体12職能団体1法人の連携組織へと拡充した。 定期的に本部委員会（2回）・推進委員会（2回）・運営委員会（6回）を開催した。 代表校と連携校に配置している本プログラムの専従教育職員らが事業推進計画の打合せを行う作業会議を毎月1回以上開催し、実効性のある連携教育を展開した。 代表校と連携校に設置しているテレビ会議システムを活用し、事業進捗状況に関する事務局とサテライト事務局間の打合せ会議を連日実施した。 【平成26年度】 【本部委員会】 第1回本部委員会 出席総数 25名 ※第2回本部委員会、3月実施予定 【推進委員会】 第1回推進委員会 出席総数 27名 ※第2回推進委員会、2月実施予定 【運営委員会】 第1回運営委員会 出席総数 14名 第2回運営委員会 出席総数 15名 第3回運営委員会 出席総数 10名 第4回運営委員会 メール会議 18名 ※第5回運営委員会 1月実施予定 ※第6回運営委員会 2月実施予定	A	S：3名 A：5名 B：0名
広報活動・成果発表・情報発信の継続及び広報実施のあり方の検討	【広報システム】 平成24年12月に立ち上げたホームページでは活動内容掲載を迅速に更新することで、社会に向けた広報体制を強化した。 【広報活動】 長崎市運営の無料掲示板で広告するとともに公共施設（図書館等）でチラシ配布等を行った。 【成果発表】 <平成26年度> 第46回日本医学教育学会大会（平成26年7月、和歌山） 第7回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会（平成26年9月、新潟） 千葉大学主催「実践社会薬学の確立と発展に資する薬剤師養成プログラム」シンポジウム（平成26年9月、千葉） 【活動報告書】 平成26年度年間活動報告書現在作成中	A	S：1名 A：7名 B：0名
低学年向け合同授業（講義）5科目及び高学年向け合同授業（講義・演習）2科目の継続開講、並びに新規3科目の「NICEキャンパス長崎」への科目登録・開講	平成26年度は、平成25年度に登録・開講した低学年向け合同授業（講義）5科目と、高学年向け合同授業（講義・演習）2科目の合計7科目を、引き続きカリキュラムを改善し継続して実施した。加えて新たに低学年向け合同授業（講義）1科目と高学年向け合同授業（講義・演習）2科目の合計3科目を「NICEキャンパス長崎」に科目登録し、3大学でそれぞれ開講した。 【低学年向け合同授業（講義）】 ①「在宅がん治療概論」 （長崎大学、講義、1単位） 履修生：20名、聴講生・社会人：14名 ②「在宅ケア概論」 （長崎大学、講義、2単位） 履修生：9名、聴講生・社会人：11名	A	S：1名 A：7名 B：0名

平成26年度	実施状況（平成26年12月現在）	自己評価	評価結果																
	③「在宅緩和ケア概論」 （長崎県立大学、講義、2単位） 履修生：14名、聴講生・社会人：1名 ④「在宅看護論」 履修生：65名 ⑤「在宅医療概論」 （長崎国際大学、講義、2単位） 履修生：75名、聴講生・社会人：2名 ⑥「地域包括ケア概論」 （長崎国際大学、講義、2単位） 履修生：12名、聴講生・社会人：11名 【高学年向け合同授業（講義・演習）】 ⑦「薬物治療実践学」 （長崎大学、講義、1単位） 履修生：50名 ⑧「在宅がん治療特論」 （長崎大学、演習、1単位） 履修生：6名、聴講生・社会人：4名 ⑨「在宅緩和ケア特論」 （長崎県立大学、演習、1単位） 履修生：11名、聴講生・社会人：3名 ⑩「地域包括ケア特論」 （長崎国際大学、演習、1単位） 履修生：7名、聴講生・社会人：2名																		
低学年向け合同実習2科目の継続開講、並びにトライアルした高学年向け合同実習1科目の「NICEキャンパス長崎」への科目登録・開講	平成26年度は、平成25年度に「NICEキャンパス長崎」に登録・開講した低学年向け合同実習2科目を、引き続きカリキュラムを改善し、3大学・全連携学部が合同で夏季休暇中に開講した。なお、平成25年度に引き続き、連携3大学以外の大学からの履修生もあった。加えて平成24・25年度にトライアルした高学年向け合同実習科目として「NICEキャンパス長崎」に登録し、3大学・全連携学部が合同で夏季休暇中に開講した。 【低学年向け合同実習】 ①「在宅チーム医療早期体験学習」 長崎大学、合宿型実習2日間、実習施設：訪問看護ステーション・薬局/在宅療養在宅への居宅訪問を含む、1単位 履修生：40名 <table><tr><td>長崎大学</td><td>医学部（保健学科）、歯学部（歯学科）、薬学部（薬学科）</td></tr><tr><td>長崎県立大学</td><td>看護栄養学部（看護学科・栄養健康学科）</td></tr><tr><td>長崎国際大学</td><td>薬学部（薬学科）、健康管理学部（健康栄養学科）</td></tr><tr><td>活水女子大学</td><td>看護学部（看護学科）</td></tr></table> ②「地域包括ケア早期体験学習」 長崎大学、実習2日間、実習施設：地域包括支援センター/在宅療養者宅への居宅訪問を含む、1単位 履修生：30名 <table><tr><td>長崎大学</td><td>医学部（保健学科）、薬学部（薬学科）</td></tr><tr><td>長崎県立大学</td><td>看護栄養学部（看護学科）</td></tr><tr><td>長崎国際大学</td><td>薬学部（薬学科）、健康管理学部（健康栄養学科）</td></tr><tr><td>活水女子大学</td><td>看護学部（看護学科）</td></tr></table>	長崎大学	医学部（保健学科）、歯学部（歯学科）、薬学部（薬学科）	長崎県立大学	看護栄養学部（看護学科・栄養健康学科）	長崎国際大学	薬学部（薬学科）、健康管理学部（健康栄養学科）	活水女子大学	看護学部（看護学科）	長崎大学	医学部（保健学科）、薬学部（薬学科）	長崎県立大学	看護栄養学部（看護学科）	長崎国際大学	薬学部（薬学科）、健康管理学部（健康栄養学科）	活水女子大学	看護学部（看護学科）	A	S：1名 A：7名 B：0名
長崎大学	医学部（保健学科）、歯学部（歯学科）、薬学部（薬学科）																		
長崎県立大学	看護栄養学部（看護学科・栄養健康学科）																		
長崎国際大学	薬学部（薬学科）、健康管理学部（健康栄養学科）																		
活水女子大学	看護学部（看護学科）																		
長崎大学	医学部（保健学科）、薬学部（薬学科）																		
長崎県立大学	看護栄養学部（看護学科）																		
長崎国際大学	薬学部（薬学科）、健康管理学部（健康栄養学科）																		
活水女子大学	看護学部（看護学科）																		

平成26年度	実施状況（平成26年12月現在）	自己評価	評価結果										
	【高学年向け合同実習】 ③「在宅がん医療・緩和ケア実習」 長崎大学、実習（3日間）、実習施設：長崎大学病院・在宅療養支援診療所・在宅療養支援歯科診療所/在宅療養者宅への居宅訪問を含む、2単位） 履修生：25名 <table><tr><td>長崎大学</td><td>歯学部（歯学科）、薬学部（薬学科）</td></tr><tr><td>長崎県立大学</td><td>看護栄養学部（看護学科）</td></tr><tr><td>長崎国際大学</td><td>薬学部（薬学科）、健康管理学部（健康栄養学科）</td></tr><tr><td></td><td>人間社会学部（社会福祉学科）</td></tr><tr><td>活水女子大学</td><td>看護学部（看護学科）</td></tr></table>	長崎大学	歯学部（歯学科）、薬学部（薬学科）	長崎県立大学	看護栄養学部（看護学科）	長崎国際大学	薬学部（薬学科）、健康管理学部（健康栄養学科）		人間社会学部（社会福祉学科）	活水女子大学	看護学部（看護学科）		
長崎大学	歯学部（歯学科）、薬学部（薬学科）												
長崎県立大学	看護栄養学部（看護学科）												
長崎国際大学	薬学部（薬学科）、健康管理学部（健康栄養学科）												
	人間社会学部（社会福祉学科）												
活水女子大学	看護学部（看護学科）												
本事業活動の情報発信を目的としたフォーラム等の開催	平成26年度は3大学が合同で、長崎県民フォーラムを、長崎地区・佐世保地区で計3回開催した。 【第1回長崎県民フォーラム】 テーマ：考えよう!これからの在宅ケアを 日時：平成26年7月5日（土）14：00～16：00 会場：長崎大学 文教スカイホール 参加総数：118名 取組紹介「長崎県における訪問リハビリテーションの状況報告」 公益社団法人 長崎県理学療法士協会 清水 章宏 特悦講演「在宅ケアを支える訪問リハビリテーション」 一般社団法人日本訪問リハビリテーション協会副会長 宮田 昌司 【第2回長崎県民フォーラム】 テーマ：考えよう!これからの在宅ケアを 日時：平成26年10月4日（土）13：30～15：30 会場：アルカスSASEBO 参加総数：138名 講演① 「自宅で選ぶケア! 地域包括支援センターから見えるそれぞれの形」 佐世保市相浦地区地域包括支援センターセンター長 長塚 弘章 講演② 「これからの在宅ケアのあるべき姿」 長崎大学 理事 副学長 松坂 誠應 【第3回長崎県民フォーラム】 テーマ：考えよう!これからの在宅がんケアを 日時：平成26年12月6日（土）14：00～16：00 会場：長崎大学中部講堂 参加定員：225名 特別講演 「がん・認知症とともにこれからを生きる、私や家族の選択、そしてその先にあるもの…」 長尾クリニック院長 長尾 和宏	A	S：1名 A：7名 B：0名										
多職種協働による在宅がん医療・緩和ケア教育に関する教育セミナー等の開催	【平成26年度】 第1回教育セミナー（平成26年4月、長崎大学） 参加総数 20名（教員7名、学生14名）	A	S：0名 A：8名 B：0名										
プログラム評価委員会による第2回中間評価の実施	平成26年1月に開催された第1回中間評価委員会の審議結果に基づき、取組3年目の平成27年1月に、第2回中間評価委員会を书面会議にて開催予定	A	S：0名 A：7名 B：0名 記載なし 1名										



事業カレンダー

平成26年度事業カレンダー

平成26年4月

1	火		
2	水		
3	木		
4	金		
5	土		
6	日		
7	月		
8	火	運営 広報 事業推進に関する打ち合わせ (3大学合同作業会議)	長崎大学
9	水		
10	木		
11	金		
12	土		
13	日		
14	月		
15	火		
16	水		
17	木	運営 広報 長崎国際大学学内運営委員会	長崎国際大学
18	金	運営 広報 長崎大学学内作業会議	長崎大学
19	土		
20	日		
21	月	大学 教育 平成26年度教育セミナー	長崎大学
22	火		
23	水		
24	木	委員会 第1回運営委員会 運営 広報 長崎大学学内作業会議	長崎大学 長崎大学
25	金		
26	土		
27	日		
28	月		
29	火		
30	水	運営 広報 長崎大学学内作業会議	長崎大学

平成26年5月

1	木		
2	金		
3	土		
4	日		
5	月		
6	火		
7	水	運営 広報 長崎大学学内作業会議	長崎大学
8	木		
9	金		
10	土	大学 教育 「地域包括ケア概論」(第1回～第3回)	長崎国際大学
11	日		
12	月		
13	火	運営 広報 事業推進に関する打ち合わせ (3大学合同作業会議) 運営 広報 長崎大学学内作業会議	長崎大学 長崎大学
14	水		
15	木		
16	金		
17	土	大学 教育 「地域包括ケア概論」(第4回～第5回)	長崎国際大学
18	日		
19	月	委員会 第1回推進委員会 運営 広報 長崎大学学内作業会議	長崎大学 長崎大学
20	火		
21	水		
22	木	運営 広報 第1回長崎県民フォーラムに関する 打ち合わせ 大学 教育 「在宅がん治療概論」(第1回)	長崎大学 長崎大学
23	金		
24	土	大学 教育 「在宅緩和ケア特論」(第1回) 大学 教育 「地域包括ケア概論」(第6回～第7回)	長崎県立大学 長崎国際大学
25	日		
26	月		
27	火		
28	水		
29	木	委員会 第1回本部委員会 運営 広報 長崎大学学内作業会議 大学 教育 「在宅がん治療概論」(第2回)	長崎大学 長崎大学 長崎大学
30	金		
31	土	大学 教育 「地域包括ケア概論」(第8回)	長崎国際大学

平成26年6月				
1	日			
2	月			
3	火			
4	水			
5	木	大学 教育	「在宅がん治療概論」(第3回)	長崎大学
6	金			
7	土	大学 教育	「地域緩和ケア特論」(第2回)	長崎県立大学
		運営 広報	長崎大学学内作業会議	長崎大学
8	日			
9	月			
10	火	運営 広報	事業推進に関する打ち合わせ (3大学合同作業会議)	長崎大学
		運営 広報	長崎大学学内作業会議	長崎大学
11	水			
12	木	大学 教育	「在宅がん治療概論」(第4回)	長崎大学
13	金			
14	土	大学 教育	「地域包括ケア概論」(第9回～第10 回)	長崎国際大学
15	日			
16	月			
17	火			
18	水			
19	木	大学 教育	「在宅がん治療概論」(第5回)	長崎大学
		学会等	第19回日本緩和医療学会学術大会	神戸国際展示場(神戸)
20	金	運営 広報	長崎大学学内作業会議	長崎大学
		学会等	第19回日本緩和医療学会学術大会	神戸国際展示場(神戸)
21	土	大学 教育	「地域包括ケア概論」(第11回～第13 回)	長崎国際大学
		学会等	第19回日本緩和医療学会学術大会	神戸国際展示場(神戸)
22	日			
23	月			
24	火			
25	水			
26	木	大学 教育	「在宅がん治療概論」(第6回)	長崎大学
27	金			
28	土	大学 教育	「地域包括ケア概論」(第14回～第15 回)	長崎国際大学
29	日			
30	月			

平成25年7月				
1	火			
2	水			
3	木	運営 広報	第1回長崎県民フォーラムに関する 打ち合わせ	長崎大学
		大学 教育	「在宅がん治療概論」(第7回)	長崎大学
4	金	運営 広報	長崎大学学内作業会議	長崎大学
5	土	フォー ラム等	第1回長崎県民フォーラム	長崎大学 文教スカイホール
6	日			
7	月	運営 広報	長崎大学学内作業会議	長崎大学
8	火	運営 広報	事業推進に関する打ち合わせ (3大学合同作業会議)	長崎大学
9	水			
10	木	大学 教育	「在宅がん治療概論」(第8回) ※台風のため中止	長崎大学
11	金			
12	土	学会等	第22回日本ホスピス・在宅ケア研究 会 全国大会	神戸ポートピアホテル(神戸)
13	日	学会等	第22回日本ホスピス・在宅ケア研究 会 全国大会	神戸ポートピアホテル(神戸)
14	月			
15	火			
16	水			
17	木			
18	金	学会等	第46回日本医学教育学会大会	和歌山県立医科大学(和歌山)
19	土	学会等	第46回日本医学教育学会大会	和歌山県立医科大学(和歌山)
20	日	学会等	第46回日本医学教育学会大会	和歌山県立医科大学(和歌山)
21	月			
22	火			
23	水	運営 広報	長崎大学学内作業会議	長崎大学
24	木			
25	金			
26	土			
27	日			
28	月	委員会	第2回運営委員会	長崎大学
29	火			
30	水	運営 広報	長崎大学学内作業会議	長崎大学
31	木			

平成26年8月

1	金			
2	土			
3	日			
4	月			
5	火	運営 広報	事業推進に関する打ち合わせ (3大学合同作業会議)	長崎大学
		運営 広報	長崎大学学内作業会議	長崎大学
6	水			
7	木			
8	金	運営 広報	事業推進に関する打ち合わせ	千住博内科 (佐世保)
9	土			
10	日			
11	月	大学 教育	「在宅チーム医療早期体験学習」 事前オリエンテーション	長崎国際大学
12	火			
13	水			
14	木			
15	金			
16	土			
17	日			
18	月	運営 広報	長崎大学学内作業会議	長崎大学
		大学 教育	「在宅チーム医療早期体験学習」 「地 域包括ケア早期体験学習」事前オリ エンテーション	長崎大学
19	火	大学 教育	「地域包括ケア早期体験学習」 事前オリエンテーション	長崎県立大学
20	水	大学 教育	「在宅チーム医療早期体験学習」 事前オリエンテーション	長崎県立大学、長崎国際大学
21	木	大学 教育	「在宅チーム医療早期体験学習」	長崎大学、他
		運営 広報	事業推進に関する打ち合わせ (3大学合同作業会議)	長崎大学
22	金	大学 教育	「在宅チーム医療早期体験学習」	長崎大学、他
23	土			
24	日			
25	月			
26	火			
27	水	大学 教育	「地域包括ケア早期体験学習」 事前オリエンテーション	長崎県立大学、長崎国際大学
28	木	大学 教育	「地域包括ケア早期体験学習」	長崎大学、他
29	金	大学 教育	「地域包括ケア早期体験学習」	長崎大学、他
30	土			
31	日			

平成26年9月

1	月	大学 教育	「在宅がん医療・緩和ケア実習」 事前オリエンテーション	長崎大学
2	火	大学 教育	「在宅がん医療・緩和ケア実習」 事前オリエンテーション	長崎県立大学、長崎国際大学
3	水	大学 教育	「在宅がん医療・緩和ケア実習」	長崎大学病院 (長崎)
4	木	大学 教育	「在宅がん医療・緩和ケア実習」	長崎大学、他
5	金	大学 教育	「在宅がん医療・緩和ケア実習」	長崎大学、他
6	土			
7	日			
8	月			
9	火	運営 広報	事業推進に関する打ち合わせ (3大学合同作業会議)	長崎大学
10	水			
11	木			
12	金			
13	土			
14	日			
15	月			
16	火			
17	水	運営 広報	長崎県立大学学内運営委員会	長崎県立大学
18	木			
19	金	運営 学会等	長崎大学学内作業会議 第7回日本保健医療福祉連携教育学 学会 学術集会	長崎大学 新潟医療福祉大学 (新潟)
20	土	学会等	第7回日本保健医療福祉連携教育学 学会 学術集会	新潟医療福祉大学 (新潟)
21	日	学会等	第7回日本保健医療福祉連携教育学 学会 学術集会	新潟医療福祉大学 (新潟)
22	月			
23	火			
24	水	運営 広報	長崎大学学内作業会議	長崎大学
25	木			
26	金			
27	土	大学 教育	「在宅医療概論」 (第1回～第3回)	長崎国際大学
28	日			
29	月	学会等	「実践社会薬学の確立と発展に資する 薬剤師養成プログラム」 シンポジウム	千葉大学 (千葉)
30	火			

平成26年10月

1	水			
2	木	大学教育	「在宅ケア概論」(第1回)	長崎大学
3	金			
4	土	フォーラム等 大学教育	第2回長崎県民フォーラム 「在宅医療概論」(第4回～第5回)	アルカスSASEBO (佐世保)
5	日			
6	月			
7	火	運営 広報	事業推進に関する打ち合わせ (3大学合同作業会議)	長崎大学
8	水	大学教育	「在宅緩和ケア概論」(第1回)	長崎県立大学
9	木	大学教育	「在宅ケア概論」(第2回)	長崎大学
10	金			
11	土	大学教育	「在宅医療概論」(第6回～第7回)	長崎国際大学
12	日			
13	月			
14	火			
15	水	大学教育	「在宅緩和ケア概論」(第2回)	長崎県立大学
16	木	委員会 運営 広報 大学教育	第3回運営委員会 長崎大学学内作業会議 「在宅ケア概論」(第3回)	長崎大学 長崎大学 長崎大学
17	金			
18	土	大学教育	「在宅医療概論」(第8回～第9回)	長崎国際大学
19	日			
20	月			
21	火			
22	水	大学教育	「在宅緩和ケア概論」(第3回)	長崎県立大学
23	木	大学教育	「在宅ケア概論」(第4回)	長崎大学
24	金			
25	土	大学教育	「在宅医療概論」(第10回～第11回)	長崎国際大学
26	日			
27	月			
28	火	運営 広報	事業推進に関する打ち合わせ (3大学合同作業会議)	長崎大学
29	水	大学教育	「在宅緩和ケア概論」(第4回)	長崎県立大学
30	木	大学教育	「在宅ケア概論」(第5回)	長崎大学
31	金			

平成26年11月

1	土			
2	日			
3	月			
4	火			
5	水	大学教育	「在宅緩和ケア概論」(第5回)	長崎県立大学
6	木	大学教育	「在宅ケア概論」(第6回)	長崎大学
7	金			
8	土	大学教育 大学教育	「地域包括ケア特論」(第1回) 「在宅医療概論」(第12回)	長崎国際大学 長崎国際大学
9	日			
10	月			
11	火	運営 広報 運営 広報	事業推進に関する打ち合わせ (3大学合同作業会議) 長崎大学学内作業会議	長崎大学 長崎大学
12	水	大学教育	「在宅緩和ケア概論」(第6回)	長崎県立大学
13	木	大学教育	「在宅ケア概論」(第7回)	長崎大学
14	金			
15	土	大学教育 大学教育	「在宅がん治療特論」(第1回) 「在宅医療概論」(第13回～第14回)	長崎大学 長崎国際大学
16	日			
17	月			
18	火			
19	水			
20	木	大学教育	「在宅ケア概論」(第8回)	長崎大学
21	金	大学教育	「在宅緩和ケア概論」(第7回)	長崎県立大学
22	土	大学教育	「地域包括ケア特論」(第2回)	長崎国際大学
23	日	学会等	第76回九州山口薬学大会	長崎ブリックホール (長崎)
24	月	学会等	第76回九州山口薬学大会	長崎ブリックホール (長崎)
25	火			
26	水	大学教育	「在宅緩和ケア概論」(第8回)	長崎県立大学
27	木	運営 広報 大学教育	長崎大学学内作業会議 「在宅ケア概論」(第9回)	長崎大学 長崎大学
28	金			
29	土	大学教育	「在宅がん治療特論」(第2回)	長崎大学
30	日	学会等	第19回日本在宅ケア学会学術集会	九州大学百年講堂 (福岡)

平成26年12月

1	月		
2	火		
3	水	大学教育	「在宅緩和ケア概論」(第9回) 長崎県立大学
4	木	運営広報	長崎大学学内作業会議 長崎大学
		大学教育	「在宅ケア概論」(第10回) 長崎大学
5	金		
6	土	フォーラム等	第3回長崎県民フォーラム 長崎大学 中部講堂
7	日		
8	月		
9	火	運営広報	事業推進に関する打ち合わせ (3大学合同作業会議) 長崎大学
10	水	大学教育	「在宅緩和ケア概論」(第10回) 長崎県立大学
11	木	運営広報	長崎大学学内作業会議 長崎大学
		大学教育	「在宅ケア概論」(第11回) 長崎大学
12	金		
13	土	大学教育	「在宅医療概論」(第15回) 長崎国際大学
14	日		
15	月		
16	火	運営広報	長崎大学学内作業会議 長崎大学
17	水	大学教育	「在宅緩和ケア概論」(第11回) 長崎県立大学
18	木	大学教育	「在宅ケア概論」(第12回) 長崎大学
19	金	委員会	第4回運営委員会 ※書面会議
20	土		
21	日		
22	月		
23	火		
24	水	運営広報	事業推進に関する打ち合わせ (3大学合同拡大作業会議) 長崎大学
25	木		
26	金		
27	土		
28	日		
29	月		
30	火		
31	水		

平成27年1月

1	木		
2	金		
3	土		
4	日		
5	月		
6	火		
7	水	大学教育	「在宅緩和ケア概論」(第12回) 長崎県立大学
8	木	大学教育	「在宅ケア概論」(第13回) 長崎大学
9	金		
10	土		
11	日		
12	月		
13	火	運営広報	事業推進に関する打ち合わせ (3大学合同作業会議) 長崎大学
14	水	大学教育	「在宅緩和ケア概論」(第13回) 長崎県立大学
15	木	大学教育	「在宅ケア概論」(第14回) 長崎大学
16	金		
17	土		
18	日		
19	月		
20	火	委員会	評価委員会 ※書面会議
21	水	大学教育	「在宅緩和ケア概論」(第14回) 長崎県立大学
22	木	大学教育	「在宅ケア概論」(第15回) 長崎大学
23	金		
24	土		
25	日		
26	月		
27	火		
28	水	大学教育	「在宅緩和ケア概論」(第15回) 長崎県立大学
29	木	委員会	第5回運営委員会 長崎大学
30	金		
31	土		

平成27年2月				
1	日			
2	月			
3	火	運営 広報	事業推進に関する打ち合わせ (3大学合同作業会議)	長崎大学
4	水			
5	木			
6	金			
7	土			
8	日			
9	月	委員会	第2回推進委員会	長崎大学
10	火	運営 広報	事業推進に関する打ち合わせ (中間評価資料作成会議)	長崎大学
11	水			
12	木			
13	金	運営 広報	事業推進に関する打ち合わせ (中間評価資料作成会議)	長崎大学
14	土			
15	日			
16	月			
17	火			
18	水	運営 広報	事業推進に関する打ち合わせ (中間評価資料作成会議)	長崎大学
19	木			
20	金			
21	土			
22	日			
23	月			
24	火			
25	水			
26	木			
27	金			
28	土			

平成27年3月				
1	日			
2	月			
3	火	運営 広報	事業推進に関する打ち合わせ (3大学合同作業会議)	長崎大学
4	水	委員会	第2回本部委員会	長崎大学
5	木			
6	金			
7	土			
8	日			
9	月			
10	火			
11	水			
12	木			
13	金			
14	土	学会等	日本臨床腫瘍学会学術大会2015	みやこめっせ（京都）
15	日	学会等	日本臨床腫瘍学会学術大会2015	みやこめっせ（京都）
16	月			
17	火			
18	水			
19	木			
20	金			
21	土			
22	日			
23	月	委員会	第6回運営委員会	※書面会議
24	火			
25	水			
26	木			
27	金			
28	土			
29	日			
30	月	運営 広報	事業推進に関する打ち合わせ (3大学合同拡大作業会議)	長崎大学
31	火			

参考 平成24年度事業カレンダー

平成24年	9月3日	「大学間連携共同教育推進事業」採択
	9月5日	長崎大学学内打合わせ会議開催
	9月11日	文部科学省主催「大学間連携共同教育推進事業」事前説明会出席
	9月21日	「大学間連携共同教育推進事業の共同実施に関する協定書」締結
	9月27日	「大学間連携共同教育推進事業」の交付内定
	10月16日	「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎」3大学合同記者会見
	12月6日	設立会議（第1回本部委員会会議）開催
		「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎」設立
	12月18日	キックオフシンポジウム開催
	12月26日	第1回推進委員会会議開催
		第1回運営委員会会議開催
平成25年	1月11日	第2回運営委員会会議開催
	1月31日	第3回運営委員会会議開催
	2月13日	第4回運営委員会会議開催
	2月17日	第1回長崎県民フォーラム開催
	2月23日	第2回長崎県民フォーラム開催
	2月26日	第1回教育セミナー開催
	2月28日	第2回推進委員会会議開催
		第5回運営委員会会議開催
	3月3日	長崎がんフォーラム開催
	3月4日	第2回教育セミナー開催
	3月6・7・8日	在宅がん医療・緩和ケア合同実習トライアル 実施
	3月14日	第2回本部委員会会議開催
	3月21日	第6回運営委員会会議開催

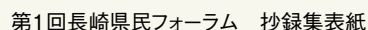
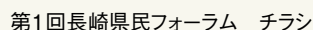
参考 平成25年度事業カレンダー

平成25年	4月11日 ～7月18日	「在宅がん治療概論」 実施
	4月23日	第1回運営委員会会議開催
	5月16日	第1回推進委員会会議開催
	5月23日	第1回本部委員会会議開催
	5月31日	第2回運営委員会会議開催
	8月5日	第3回運営委員会会議開催
	8月29・30日	「在宅チーム医療早期体験学習」 実施
	9月18・19日	「地域包括ケア早期体験学習」 実施
	9月28日	第1回長崎県民フォーラム開催
	9月28日 ～1月11日	「在宅医療概論」 実施
	10月2日 ～1月22日	「在宅緩和ケア概論」 実施
	10月3日 ～1月27日	「在宅ケア概論」 実施
	10月17日	第4回運営委員会会議開催
	10月26日 ～11月30日	「在宅がん治療特論」 実施
	12月7日	第2回長崎県民フォーラム開催
	12月16日	第5回運営委員会会議開催
平成26年	1月20日	評価委員会会議開催
	2月12日	第2回推進委員会会議開催
	2月22日	第3回長崎県民フォーラム開催
	3月4日	第2回本部委員会会議開催
		教育セミナー開催
	3月12・13・14日	「在宅がん医療・緩和ケア合同実習トライアル」 実施
	3月18日	第6回運営委員会会議開催（書面）



資 料

平成26年度第1回長崎県民フォーラム



平成26年度第2回長崎県民フォーラム

平成26年度 第2回長崎県民フォーラム

**考えよう！
これからの在宅ケアを**

平成24年度文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」選定取組
「多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成拠点」

**参加無料
どなたでも参加可
定員 200名**
お申し込みは
FAX・メール・お電話にて
受付中

日時 **平成26年
10月4日(土)**
13:30～15:30 (受付13:00～)

会場 **アルカス SASEBO 大講義室**

講演①「自分で選ぶ在宅ケア！
地域包括支援センターから見えるそれぞれの形」
(講師) **長塚弘章** (佐世保市相浦地域包括支援センターセンター長) 社会福祉士 主任介護支援専門員 介護福祉士

講演②「これからの在宅ケアのあるべき姿」
(講師) **松坂誠應** (長崎大学理事 副学長) 日本リハビリテーション医学会専門医

ポスター制作 長崎県立大学国際情報学部情報メディア学科 2年 米原香名美

■お問い合わせ先
在宅医療・福祉コンソーシアム長崎 事務局 (サテライト)
〒859-3298 長崎県佐世保市ハウステンボス町 2825 番7 長崎国際大学 薬学部内
【TEL】0956-20-5611 【FAX】0956-20-5622
【Eメール】t-gp@niu.ac.jp 【FAX】0956-20-5622
【ホームページ】http://www.hhc-nagasaki.jp/

【主催】在宅医療・福祉コンソーシアム長崎
長崎大学、長崎県立大学、長崎国際大学、長崎県、長崎市、
長崎市、佐世保市、長崎県医師会、長崎県薬剤師会、
長崎県看護協会、長崎県歯科医師会、長崎県歯科技術士会、
長崎県作業療法士会、長崎県言語聴覚士会、長崎県栄養士会、
長崎県社会福祉士会、長崎県介護福祉士会、
認定NPO法人長崎在宅ケアネット

長崎大学 長崎県立大学 長崎国際大学 長崎県 長崎市 長崎市 佐世保市 長崎県医師会 長崎県薬剤師会 長崎県看護協会 長崎県歯科医師会 長崎県歯科技術士会 長崎県作業療法士会 長崎県言語聴覚士会 長崎県栄養士会 長崎県社会福祉士会 長崎県介護福祉士会 認定NPO法人長崎在宅ケアネット

第2回長崎県民フォーラム チラシ

平成24年度文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」選定取組
「多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成拠点」

平成26年度 **第2回** 長崎県民フォーラム 抄録集

**考えよう！
これからの在宅ケアを**

日時 **平成26年
10月4日(土)**
13:30～15:30 (受付13:00～)

会場 **アルカス SASEBO 大会議室**

【主催】在宅医療・福祉コンソーシアム長崎
長崎大学、長崎県立大学、長崎国際大学、長崎県、長崎市、
長崎市、佐世保市、長崎県医師会、長崎県薬剤師会、
長崎県看護協会、長崎県歯科医師会、長崎県歯科技術士会、
長崎県作業療法士会、長崎県言語聴覚士会、長崎県栄養士会、
長崎県社会福祉士会、長崎県介護福祉士会、
認定NPO法人長崎在宅ケアネット

第2回長崎県民フォーラム 抄録集表紙

平成26年度第3回長崎県民フォーラム

平成 26 年度 第3回長崎県民フォーラム

考えよう！

これからの在宅ケアを

日時 平成26年
12月6日(土)
14:00~16:00 (受付13:30~)

会場 長崎大学 (文教キャンパス)
中部講堂

参加無料
どなたでも参加可
定員 300名
お申し込みは
FAX・メール・お電話にて
受付中

講師 長尾 和宏
医療法人社団協和会理事長
長尾クリニック院長

テーマ 「我が人脈10のやけどさ」
「家で死ぬんだ」「卒後」
「介護できる人、できない人」
「何となくという感じ、しんどい感じ」
「ばあちゃん、介護施設に入ったら
もっとボケるぞ」 など多数

がん・認知症とともに
これからの生きる、
私や家族の選択、
そしてその先に
あるもの・・・

ポスター制作：渡田 真子 (長崎県立大学 国際情報学部情報メディア学科2年)

平成24年度文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」選定取組
「多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成拠点」

■お問い合わせ先
在宅医療・福祉コンソーシアム長崎 事務局(サテライト)
〒851-2195 長崎県西彼杵郡長与町まなび野1-1-1 長崎県立大学 看護栄養学部内
TEL・FAX:095-813-5172
【メールアドレス】consortium@sunac.jp 【ホームページ】<http://www.hhc-nagasaki.jp/>

長崎大学
長崎県立大学
長崎国際大学

第3回長崎県民フォーラム チラシ

平成24年度文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」選定取組
「多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成拠点」

平成26年度 第3回 長崎県民フォーラム 抄録集

考えよう！

これからの在宅ケアを

がん・認知症とともに
これからの生きる、
私や家族の選択、
そしてその先に
あるもの・・・

日時 平成26年
12月6日(土)
14:00~16:00 (受付13:30~)

会場 長崎大学 (文教キャンパス)
中部講堂

主催 在宅医療・福祉コンソーシアム長崎
長崎大学、長崎県立大学、長崎国際大学、長崎県、長崎市、
長与町、佐世保市、長崎県医師会、長崎県薬剤師会、
長崎県看護協会、長崎県医師会、長崎県歯科医師会、
長崎県歯科衛生士会、長崎県理学療法士会、
長崎県社会福祉士会、長崎県介護福祉士会、
認定NPO法人長崎在宅ネット

表紙デザイン協力：渡田 真子 (長崎県立大学 国際情報学部情報メディア学科2年)

第3回長崎県民フォーラム 抄録集表紙

平成 26 年度 第3回長崎県民フォーラム

考えよう！

これからの在宅ケアを

日時 平成26年
12月6日(土)
14:00~16:00 (受付13:30~)

会場 長崎大学 (文教キャンパス)
中部講堂

参加無料
どなたでも参加可
定員 300名

講師 長尾 和宏
医療法人社団協和会理事長
長尾クリニック院長

テーマ 「我が人脈10のやけどさ」
「家で死ぬんだ」「卒後」
「介護できる人、できない人」
「何となくという感じ、しんどい感じ」
「ばあちゃん、介護施設に入ったら
もっとボケるぞ」 など多数

がん・認知症とともに
これからの生きる、
私や家族の選択、
そしてその先に
あるもの・・・

平成24年度文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」選定取組
「多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成拠点」

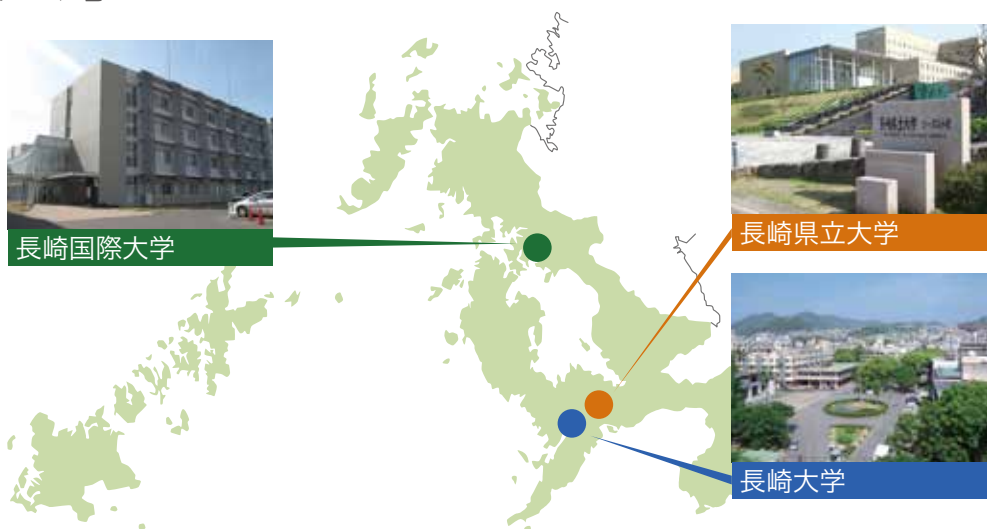
〇参加ご希望の方は、下記まで TEL か FAX・メールでご連絡下さい。(当日参加可)
※参加申込書は、ホームページからもダウンロードが可能です。

【お問い合わせ先】
在宅医療・福祉コンソーシアム長崎 事務局(サテライト)
〒851-2195 長崎県西彼杵郡長与町まなび野1-1-1 長崎県立大学 看護栄養学部内
TEL・FAX:095-813-5172
【メールアドレス】consortium@sunac.jp 【ホームページ】<http://www.hhc-nagasaki.jp/>

【主催】在宅医療・福祉コンソーシアム長崎
長崎大学、長崎県立大学、長崎国際大学、長崎県、長崎市、
長与町、佐世保市、長崎県医師会、長崎県薬剤師会、
長崎県看護協会、長崎県医師会、長崎県歯科医師会、
長崎県歯科衛生士会、長崎県理学療法士会、
長崎県社会福祉士会、長崎県介護福祉士会、
認定NPO法人長崎在宅ネット

平成26年11月23日(日・祝) 長崎新聞掲載広告

構成大学



長崎大学

多文化社会学部	多文化社会学科
教育学部	学校教育教員養成課程
経済学部	総合経済学科
医学部	医学科、保健学科
歯学部	歯学科
薬学部	薬学科、薬科学科
工学部	工学科
環境科学部	環境科学科
水産学部	水産学科
大学院	教育学研究科、経済学研究科、 工学研究科、水産・環境科学総合研究科、 生産化学研究科、医歯薬学総合研究科、 国際健康開発研究科

1857年にオランダ軍医ポンペ・ファン・メルデルフォールトが、オランダ語による医学講義を開始した医学伝習所の設置が長崎大学の創基である。その後発展を重ね1949年に旧制の長崎医科大学、長崎医科大学附属薬学専門部、長崎経済専門学校、長崎師範学校、長崎青年師範学校、長崎高等学校を包括し長崎大学となる。長崎に根づく伝統的文化を継承しつつ、豊かな心を育み、地球の平和を支える科学を創造することによって、社会の調和的発展に貢献することを理念としている。

長崎県立大学

経済学部	経済学科、地域政策学科、 流通・経営学科
国際情報学部	国際交流学科、情報メディア学科
看護栄養学部	看護学科、栄養健康学科
大学院	経済学研究科、国際情報学研究科、 人間健康科学研究科

2008年に「長崎県立大学」と「県立長崎シーボルト大学」が統合。長崎の歴史・文化・地理的特性を踏まえ、県立の大学として、地域経済の発展と県民の健康・生活・文化の向上を図る学術文化の中心としての役割を担うべく、「人間を尊重し平和を希求する精神を備えた創造性豊かな人材の育成」「長崎に根ざした新たな知の創造」「大学の総合力に基づく地域社会及び国際社会への貢献」を理念としている。

長崎国際大学

人間社会学部	国際観光学科、社会福祉学科
健康管理学部	健康栄養学科
薬学部	薬学科
大学院	人間社会学研究科、健康管理学研究科、 薬学研究科

2000年開設。人間尊重を基本理念に、専門知識と技能に加えて、知性、感性、人間性の備わった人材の育成、地域から愛され、地域社会に貢献できる人材の育成、異文化を理解し国際社会に貢献できる人材の育成を目標とし「いつも、人から。そして、心から。」をモットーとしている。また、全学共通科目の「人間理解」分野で「茶道文化」をとりいれ、ホスピタリティの探究・実現を目指している。

総括（在宅医療・福祉コンソーシアム長崎専任教育職員）

長崎大学医学部医学科助教
山之内 孝彰

実習科目の「在宅チーム医療早期体験学習」、「地域包括ケア早期体験学習」、「地域包括ケア早期体験学習」や、演習科目の「在宅がん治療特論」、「在宅緩和ケア特論」、「地域包括ケア特論」では他学部学生の視点の違いを感じ、将来の専門職の在宅医療における役割を考える機会となったようである。本年度で予定した13科目全てが開講された。来年度以降、さらに有意義だと感じられる科目となるよう、ブラッシュアップしていきたい。

長崎大学歯学部助教
介田 圭

薬学・看護学の統合教育体制に医学・歯学等の教育者を加え、「長崎薬学・看護学連合コンソーシアム」事業を、さらに拡大・充実させた「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎」が組織され、約2年が過ぎた。昨年は、在宅医療・がん医療・緩和ケアに関わる専門職連携教育を大学間合同実習として実践できるカリキュラムを作成、本年度は、その質の保証を目標として頑張ってきた。さらに、来年度は、その魅力をできるだけ多くの学生さん達に伝えていきたい。

長崎県立大学看護栄養学部看護学科准教授
吉原 律子

提供科目の中でも、模擬事例で演習する『特論』や在宅ケアの現場から学ぶ『実習』に参加した学生は、「協働」の中心は療養者（患者）であり、その支援には多職種の専門的ケアと連携が不可欠であることを実感していた。さらに他者の理解やケアの提案には、コミュニケーション力や自身の専門領域を高める必要があるとの気づきが多くみられ、学生、教員双方に意義のある科目であった。本事業への関心は、徐々にではあるが学生間に出てきている。今後はこれが実質的な多学部学生の参加につながるよう、その魅力を伝える努力が必要である。

長崎国際大学薬学部准教授
岩下 淳二

学生参加型の早期体験学習や在宅がん医療・緩和ケア実習では、初めて目にする現場の専門職のことや自身が目指す専門職以外の職種にも関心を寄せ、進んで学習する姿勢が見られた。在宅医療の現場や、地域包括支援センターの訪問を通じて患者さんや介護利用者の立場に立った生きた学習ができたものと評価している。来年度は、今年度新規に立ち上げた科目を含め、内容の充実に努めていきたい。

おわりに

長崎大学薬学部教授
中嶋 幹郎

平成24年12月に組織された「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎」が主体となって展開している文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」選定取組「多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成拠点」事業（平成24～28年度）も平成26年度は3年目に入り、今年は事業成功に向けた正念場の年になりました。4月には、これまで本事業にご協力とご指導を頂いておりました認定NPO法人長崎在宅Dr.ネットに、正式に本コンソーシアムの連携組織として加わって頂くことが叶い、長崎県における連携・協働の輪を一層広げることができました。その結果、当初描いた計画通りに本取組テーマに沿った授業13科目を3大学が協議し合同開講する形で、長崎県内の大学における単位互換制度である「NICEキャンパス長崎」へ登録することができ、夏季休暇中には、その中の臨床実習3科目「在宅チーム医療早期体験学習」、「地域包括ケア早期体験学習」および「在宅がん医療・緩和ケア実習」をそろって開講することができました。また10月には、本事業の推進責任者が調理事・副学長から松坂理事・副学長へバトンタッチされ、松坂理事・副学長が本部委員会の委員長に就任されておられます。松坂先生は3月までは本部委員会の委員として本事業に取り組みまれておられましたが、今後は松坂先生のリーダーシップの下、事業終了後の継続に向けた活動も含めて事業推進を行ってまいります。

本年度、本事業のためにご講演頂きました講師の先生方、また講義・実習にご協力頂きました関係機関の皆様方に心からお礼を申し上げますとともに、今後とも本コンソーシアムの活動に対する変わらないご支援とご指導をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

長崎県立大学看護栄養学部看護学科教授
松本 幸子

平成26年度は本事業開始から3年目を迎え、これまで開講した科目に新たに「在宅がん医療・緩和ケア合同実習」と「在宅緩和ケア特論」が開講し、事業の目標である講義7科目、演習3科目、実習3科目を合わせて13科目すべての授業が開講しました。今年度の各授業の学生による評価、満足度も高い結果を得ていますが、本事業の中間評価における改善意見も参考に、これからの事業の後半2年間のさらなる充実に努めていきたいと思えます。特に各開講科目の授業は講師の先生方、授業内容ともたいへん充実した内容ですので、さらに多くの受講学生の確保が課題となります。また、本事業の「多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成拠点」を事業終了後も継続していくための授業科目、授業内容の精選、履修者確保等の課題に向けての対応が必要となります。

長崎県立大学としては、国際情報学部情報メディア学科の学生が本事業の3回の県民フォーラムのポスター制作を担当し、事業の趣旨を十分に表現した素敵な作品を作ってくれました。3種類のポスターは県内の多くの場所に掲示されたり、多くの方々に届けられ、県民フォーラムの広報に貢献しました。今後とも、本事業の推進に関係機関の皆様のご協力を、よろしくお願い申し上げます。

長崎国際大学薬学部長
榊原 隆三

「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎」は、平成24年度大学間連携共同教育推進事業「多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成拠点」を推進するため、長崎県内の大学・職能団体・行政から組織され、平成26年度には新たに1法人が加わり、3年が経過しました。本事業の推進のための大学の責務は、在宅医療と福祉、がん緩和医療と福祉に対する使命感や志を持つ学生を一人でも多く育て地域に送り出したいという点にあります。長崎国際大学の薬学部、健康管理学部、人間社会学部の3学部は、本コンソーシアムの一員として、それぞれの特徴を活かした事業参画および活動を行ってまいりました。平成26年度は、平成25年度に開講した「在宅医療概論」、「在宅チーム医療早期体験学習」、「地域包括ケア早期体験学習」に加え、「地域包括ケア概論」、「地域包括ケア特論」、「在宅がん医療・緩和ケア実習」を開講し、一定以上の受講者を集め、在宅医療・福祉およびその実践に極めて重要な意味を持つ多職種連携に関する啓発活動を実践することができました。さらに、各種専門職および一般市民の方に在宅医療・福祉および緩和ケアについてご理解を深めていただく目的で、長崎県民フォーラム「考えようこれからの在宅ケアを」と題して、「自分で選ぶ在宅ケア!地域包括支援センターから見えるそれぞれの形」、「これからの在宅ケアのあるべき姿」の2題のご講演を佐世保市において主催いたしました。多くの市民、学生の方々に出席していただき、身近になった在宅ケアの諸問題について活発な討論を行うことができました。この場をお借りしてご講演いただいた講師の先生方、また講義・実習にご協力いただきました関係機関の皆様方にお礼申し上げますとともに、今後とも、「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎」の活動に対するご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成24年度文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」選定取組

多職種協働による在宅がん医療・ 緩和ケアを担う専門人材育成拠点 平成26年度 年間活動報告書

平成27年3月31日 発行



在宅医療・福祉コンソーシアム長崎

<http://www.hhc-nagasaki.jp/>

長崎大学（代表校）

〒852-8521 長崎県長崎市文教町1-14

TEL: 095-819-2460

長崎県立大学（連携校）

〒851-2195 長崎県西彼杵郡長与町まなび野1-1-1

TEL: 095-813-5172

長崎国際大学（連携校）

〒859-3298 長崎県佐世保市ハウステンボス町2825-7

TEL: 0956-20-5611

＊本テキスト掲載の著作物の無断複製・転載を禁じます

